



Memorial Wave

1994

社団法人 吹田青年会議所

25周年記念誌

清の思い出
— 永遠なれ —



The Creed of Junior Chamber International

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

J C I 綱領

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

「J C 宣言」

変革の能動者たらんとする青年として
個人の真に豊かな生活の実現を通して
自立した快適で活力ある地域を創造し
自由と公正を保障する国家を基盤として
世界の平和と繁栄に貢献し
地球上のすべての人と
共に生きることを誓う

綱 領

われわれ Jaycee は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合せ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

青年会議所とは

青年会議所(JC)は“明るい豊かな社会”の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

40年の歴史を持つ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりますが、現在750余の都市に6万余名の会員を擁し、全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。全世界に及ぶこの青年運動の中核は国際青年会議所ですが、110ヵ所の国及び地域に94NOM(国家青年会議所)があり、約36万人の会員が国際的な連携をもって活動しています。

日本青年会議所の事業目標は、“社会と人間の開発”です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し、「自由」を基盤とした民主的集団指導能力の開発を押し進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創り出すため、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です。



次

理事長挨拶	2
祝 辞	3
わが活動を振り返って(1970～1989年)	4
わが活動この5年間の歩み(1990～1994年)	12
25周年総合記念事業 吹田チャンプル'94	
—これからのまちづくり—	22
地域シンボル化政策プロジェクト部門	
①ひらけひろがれ花の街すいた	23
②公園の新たな楽しさ提案	26
③今、古典行事を見なおす	27
市民共生意識プロジェクト部門	
④すいたInternational Human Bond(IHBプログラム)	28
⑤自然への気づき	32
名 簿	
会 員 名 簿	34
特別会員名簿	38
卒業者名簿	42
吹田J C事業所マップ	44
ご協賛芳名録	46
実行委員長挨拶及び編集後記	48

ごあいさつ

社団法人 吹田青年会議所

理事長 大枝 正 人



社団法人吹田青年会議所が、多くの先輩諸賢のご尽力を得て、誕生させていただいてから、早や25年を経過いたしました。

この間に賜りました関係各位のご好意ご厚情に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本日創立25周年を記念し、総合記念事業吹田チャンプル'94を開催させていただきましたが、5年ごとの開催が恒例となっていますこうした周年事業は、関係諸賢の多大のご支援ご理解に対する感謝の気持ちを表わすとともに、今までの活動を振り返り、いろいろ取捨選択のなかで、今後の方針を確立する機会をもつということで、大変意義あるものと考えております。

平成元年に20周年記念行事を開催させていただいてから、今日までの世の変化は、形容すべき言葉に窮する激しいものでございました。

即ち国内においては、バブル経済の崩壊にともない、今なお続く長期にして深刻な不況。安定政権とされてきた自民党の分裂・不安定な政治情勢。国際的には、ソ連邦の解体とそれに伴う構造変化。激化・顕在化する民族間紛争など、当時まったく考え及ばなかったことが次々と起りました。

このように激変する時代のなかで、青年会議所運動も、周りの多くの方々と手を取合って、社会開発運動に励み、お互いがそれぞれの立場をよく理解し合い、自らも成長していこうとする動きが、いよいよ活発になってきたように思うのであります。

とき恰も、この4日関西国際空港がオープンいたしました。24時間、離着陸ができるということは、取りも直さず四六時中世界に門戸を開放するということでもあります。

こうした輝かしい事実の認識のもとに、私たち社団法人吹田青年会議所は、25年間の歴史を踏まえ、地域社会の発展に向けて、皆様方とともに歩んでまいり所存でございますので、今後いっそうのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

吹田市長 岸 田 恒 夫



社団法人 吹田青年会議所の創立25周年おめでとうございます。発足当時をふり返りますと四半世紀前の1970年〔昭和45年〕はご案内のとおり、本市の千里丘陵を会場に「人類の進歩と調和」をテーマとして開催された万国博覧会の年でした。76カ国の出展と、6,400万人の内外の人達が吹田の地を訪れ、我が町吹田の名を世界の人々に知っていただいた記念年に皆様方の青年会議所が誕生され、今日までの長い道のりを歴代理事長はじめ会員皆様方が常に連携を深めながら各種事業を展開され、自らが“昨日より今日”、“今日から明日”へと進歩を願い、人の心の温かさを味わいながら、豊かで安心して日々暮せる生活の舞台づくりとの調和を求めて、人づくり、町づくりに大きな成果と実績をあげられ今日の本市の発展に、多大のご貢献を賜ってまいりましたことに対し、貴会議所の誌面をお借りして、心から敬意を表し、感謝とお礼を申し上げます。

都市には“職”“住”“遊”があり、魅力がなければならぬと申しますが、その魅力は人にはそれぞれ人格がありますように都市にも品格、すなわち都市格が必要でございます。

私は常々“住む人が都市をつくり、その都市が成熟して人を育ててくれる”と申しておりますが、住む人がつくり、育てた「ふる里吹田」と誰もが誇れる町となった時、「都市格」が生れるものと思います。



英国での産業革命が起こり、200数十年が経過した今日、物は文明を進歩させましたが、21世紀を間近に控えました今、世の中は大きく変革しようとしています。この時こそ、物から心に軸足を移していかなければなりません。心は文化を生み育てます。今日までの歩みをもう一度ふり返り、今“何を為し”“何を残すべきか”を考え、忘れ去られた「心」そして「愛」とともに人も町も画一化されてまいったものを、もっと個性あるものにすべきだと思っております。

“この人が居て、この町がある”これが“ふる里”ではないでしょうか。

皆様方には今日までの立派な年輪〔基盤〕の集大成として、本年の記念年は「開け広がれ」C運動」のスローガンのもと「吹田チャンプル'94」を資源リサイクルセンターを会場に開催を予定していただくなど、多彩な記念事業を計画していただいておりますが、私の求める町づくりをまさに地でいく事業だと思えます。

私の考える町とは“老いも若き”も、そして“男性も女性”も、お互いにやさしく、支え合う中で生れてくる人の温もりを味わいながら暮せる町、目で見て綺麗と言ってもらうより、心で美しいと感じていただける町、すなわち人情と風情があり、訪れる人々に旅情を感じていただけることのできる町です。このような町を皆様方とともに話し合い、考え、つくって行こうではありませんか。それが「すこやかで心ふれあう文化のまち」でございます。それを成し遂げるには、険しい山、坂を越えなければなりません。登り詰めて振り返って眺める景色は美しいものです。行政を預かる私をはじめ、職員一同、精一杯汗して頑張っておりますので、皆様方の若き力と豊かな実践力を愛する吹田の町づくりのために惜しみなく賜りますようお願い申し上げます。

結びに、吹田青年会議所がこの創立25周年を更なる飛躍への契機とされ、50年、100年を目指し、順風の歩みと年輪を刻まれご発展されますことと、関係皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私の目頃の感謝とお祝いの言葉とさせていただきます。

元号 (西暦)	昭和45年 (1970年)	昭和46年 (1971年)
スローガン 理事長名 会員数 (内本年度卒業生数)	「人類の進歩と調和を目指して」  木村 俊之 63名 1名	「フレンドシップ」  曾呂利 昌弘 65名 5名
家族会	ミリカフレンドルーム	大津の名鉄マリーナホテル(夏) ミリカホール(冬) 家族ボウリング大会
指導力開発系	ロバート講事法について	L I Aプログラムの研修 L I A=(Leadership In Actionの略)
経営開発系	経済活動委員会のセミナー開催	経営セミナー開催 工場見学
社会開発系	吹田市制30周年記念 吹田市民の花「さつき」決定 「さつき」ステッカー配布 小さな親切運動父兄招待	排気ガス調査 市民代表者懇談会 記者クラブ懇談会
青少年開発系	勤労青少年プール招待	児童招待スケート大会
国際関係系	万博ホスト・ホステス水泳大会	
その他	創立総会 認認証伝達式 	新年賀会 吹田J.C.広報誌創刊 
その年の主な出来事 ㊦ 世界 ㊧ 日本 ㊨ 吹田	㊦ 米ソSALT本会議 (於ウィーン) ㊧ 日本万国博覧会(大阪千里丘陵)で開催 ㊨ 新御堂筋線開通	㊦ 米アポロ14号月面着陸 ㊧ 「円」変動相場制へ移行 ㊨ 独立の市立図書館が出口町に完成

昭和47年(1972年)

「明るく豊かな地域社会づくり」



井上 義信
72名
5名

名鉄マリーナホテル大津(夏)
ミリカ“ちさと”(冬)
家族ボウリング大会・J.C夫人の集い

LIAその実践
新入会員オリエンテーション

交通標識総点検・1日交通指導員
市民代表者懇談会
市民意識調査
公害監視センター及び公衆衛生研究所見学
記者クラブ懇談会

児童招待スケート大会
親と子供の健康まつり

英会話講演会
児童英会話教室開講



新年賀会
沖縄復帰記念大会

㊦ ニクソン大統領 中国訪問
㊧ 日中国交回復
㊨ 片山市民体育館開館

昭和48年(1973年)

「J.C運動は市民のなかで」



増田 泰士
73名
4名

名鉄マリーナホテル大津(夏)
ミリカフレンドルーム(冬)
みかん狩・J.C夫人の集い

LIA会議
新入会員オリエンテーション
座禅の会

交通安全運動
市民代表者懇談会
空地開放運動
記者クラブ懇談会

児童招待スケート大会
子供カーニバル「自転車安全教室」
“親と子”と“土”の1日
吹田青少年団体代表者会議
ブルーライン作戦(青少年に夢と希望を)



アジア青年の船激励会
ベトナム公式訪問

新年賀会

㊦ 第4次中東戦争
㊧ 石油危機と消費規制
㊨ 阪急山田駅開設

昭和49年(1974年)

「見なおそう、見きわめよう、
そして自ら行動しよう」



関山 守洋
83名
8名

名鉄大山ホテル(夏)
ピクトリアレーン(冬)
家族ボウリング大会・みかん狩・J.C夫人の集い

新入会員オリエンテーション

経営開発シンポジウム
経営開発講演会

交通安全運動 消防フェスティバル始まる
吹田まつり(くろんぼ大会)
健康まつり みんなでやろう健康まつり
主催 健康を考える大阪会議
統一事業キリン草撲滅運動
淀川100野球祭
記者クラブ懇談会




クリスマス(児童招待)スケート大会
子供カーニバル「自転車安全教室」
すず虫作戦

アジア青年の船
姉妹J.C締結「サイゴンJ.C」
児童ロックフォード派遣

新年賀会 吹田青年会議所5周年記念大会
5周年記念式典 5周年記念植樹
なかよしJ.C締結(大山J.C・下田J.C)

㊦ フォード大統領(第38代)就任
㊧ ルバング島で小野田寛郎さん発見
㊨ 少年の船を巡航

元号 (西暦)	昭和50年 (1975年)	昭和51年 (1976年)
スローガン	「挑戦しよう!!今こそ地域にJCを」	「磨けJAYCEE 活かせJC」
理事長名 会員数 (内本年度卒業生数)	 井上 暎 夫 80名 9名	 加 野 元 65名 5名
家 族 会	館山寺温泉(夏)・千里山シオンロッジ(冬) みかん狩・JC夫人の集い	浜村温泉(夏)・三田アスレチック(秋) 大同生命ホール(冬) JC夫人の集い
指 導 力 開 発 系	新入会員オリエンテーション	新入会員オリエンテーション LD道場 ※LD=(Leadership Developmentの略)
経 営 開 発 系	中小企業問題研究会	経営シンポジウム
社 会 開 発 系	交通安全運動 吹田まつり 行政研究会(吹田市長を囲んで) 花壇寄贈・護美(ゴミ)箱贈呈 「クリーン作戦」のクリーンデー フェスティバル淀川101 記者クラブ懇談会	交通安全を考える会 吹田警察へ交通安全対策のツッペン寄贈 第7回「吹田まつり」主管 クリーンアップクルーメンバー 花壇寄贈、花の種配布 淀川102 記者クラブ懇談会 
青 少 年 開 発 系	スケート大会 吹田市子供野外カーニバル 「自転車安全教室」 あすなろ100～吹田の史跡を訪ねてのハイキング ヨットを作る少年の集い 	新春スケート大会 吹田市子供野外カーニバル 「自転車安全教室」 あすなろ100～吹田の史跡を訪ねてのハイキング 消防教室
国 際 関 係 系	ベトナム留学生との交歓会	
そ の 他	新年賀会 吹田JC OB交歓ソフトボール大会	新年賀会 日本JC京都会議
その年の主な出来事 ① 世界 ② 日本 ③ 吹田	① 第1回先進国首脳会議 ② 沖縄海洋博覧会開催 ③ 市政35周年記念式典	① バイキング号 火星へ軟着陸 ② ロッキード事件 ③ 万博跡地に自然園完成

昭和52年(1977年)

「考え、行動し実現しよう、
素晴らしいJ.C.、明るい社会」



藤満宣夫
76名
8名

昭和53年(1978年)

「上げようJ.C.の輪を」



龍川紀征
73名
2名

昭和54年(1979年)

「躍進と熟成をめざして」



川上浩邦
95名
9名

淡路島(夏)・東条湖ランド(秋)
J.C.夫人の集い

志摩磯辺(夏)
サニーストンホテル(冬)

琵琶湖ホテルレイクビワ(夏)
能勢簡易保険センター(秋)
サニーストンホテル(冬)

新入会員オリエンテーション
会員練成合宿
ナンギミーティング

新入会員セミナー
会員練成合宿

入会説明会
新入会員オリエンテーション

新経営開発プログラム
税務懇談会

我経営及び職場を語る会
経営セミナー

経営セミナー

交通安全ワッペン寄贈 交通安全パレード
吹田まつり協力
都市分析研究
元旦マラソン大会
淀川103、淀川マラソン
記者クラブ懇談会



交通安全運動
吹田まつり
都市環境実態調査
市政懇談会
吹田市民の木発表会
記者クラブ懇談会

交通安全運動
吹田まつり
犬養孝氏、小松左京氏による文化教養講演会(記念事業)
市政懇談会 朝比奈隆氏指揮による京都市交響楽団演奏会(記念事業)
市民の木「くすの木」寄贈(記念事業)
記者クラブ懇談会

スケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「自転車安全教室」
あすなろ100～吹田の史跡を訪ねてのハイキング
消防教室
吹田市青少年の環境をよくする会

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「自転車安全教室・竹馬ロープ遊び」
あすなろハイキング
消防教室

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル「焼板コーナー」
史跡ハイキング
ぬいぐるみ人形劇公演(記念事業)

児童ロックフォード派遣

ロックフォード友好協会歓迎吹田デー
子供英会話教室(英語劇発表会)

各国の家庭教育についての国際井戸端会議(記念事業)
会員英会話教室 外国人懇談会
JCIアジアコンファレンス参加(香港)



新年賀会
日本J.C.褒賞申請(おまつり推進賞)

新年賀会
日本J.C.褒賞・国際平和賞受賞




新年賀会
創立10周年記念式典



㊦ カーター大統領(第39代)就任
㊦ 日航ハイジャック事件
㊦ 国立民族学博物館開館

㊦ アフガン軍事クーデター
㊦ 大平内閣成立
㊦ 市民の木「くすの木」に決定

㊦ スリーマイル島原発事故
㊦ 先進国首脳会議東京サミット開催
㊦ 国鉄吹田駅新駅舎完成

元号 (西暦)	昭和55年 (1980年)	昭和56年 (1981年)
スローガン 理事長名 会員数 (内本年度卒業生数)	「もっと知ろう人間を 社会を 世界を」 関山 正彦 97名 3名	「考えよう行動しよう 明るく吹田を市民と共に」 成尾 紹雄 100名 5名
家族会	美浜原発、三方五湖、琵琶湖松原水泳場(夏) 共済会館新大阪(冬)	大津柳ヶ崎琵琶湖ホテル(夏) 共済会館新大阪(冬)
指導力開発系	LM道場 新入会員オリエンテーション 自衛隊1日体験入隊 ※LM=(Leadership Managementの略)	LD道場 新入会員オリエンテーション
経営開発系	我が経営を語る	経営セミナー
社会開発系	交通安全運動 吹田まつり本祭 市政懇談会 史跡ハイキング あすなろの小冊子作成 産地直売会 記者クラブ懇談会	春の交通安全運動 吹田まつり本祭 市政懇談会 あいさつ運動 記者クラブ懇談会 
青少年開発系	なかよしスケート大会 吹田市春の子供野外カーニバル「楽焼コーナー」 中学生弁論大会 	なかよしスケート大会 吹田市春の子供野外カーニバル「楽焼」 チビッコ道場 青少年文化活動状況調査
国際関係系	在日外国人との懇談会 ロックフォードJC歓迎会 吹田デー JC Iアジアコンファレンス参加 (シンガポール) JC英会話サークル・青年の船参加	国際井戸端会議 外国人との家庭教育シンポジウム 防衛問題研究会
その他	新年賀会 JC Iワールドコンgres 大阪にて開催	新年賀会 社団法人格取得
その年の主な出来事 ㊦ 世界 ㊧ 日本 ㊨ 吹田	㊦ ジョン・レノン射殺 ㊧ モスクワ五輪不参加 ㊨ 少年自然の家開設	㊦ サダト大統領暗殺 ㊧ 神戸ポートピア開催 ㊨ 青少年開放センター完成

昭和57年（1982年）

「自立の心・明日への創造」



故中川 克
101名
15名

グリーンピア三木（夏）
千里阪急ホテル（冬）

LD道場
新入会員研修会

1泊経営研修会
企業訪問
オフィスコンピューター研修会

秋の交通安全運動
吹田まつり
市政懇談会（Ⅰ）（Ⅱ）行政改革の動向について
街の健康診断作成資料
記者クラブ懇談会

なかよしスケート大会
吹田市春の子供野外カーニバル
「クラブ（手づくり風）」
チャレンジあつまれびっこ
ジュニアオリジナルコンサート



国際シンポジウム（留学生を迎え）
関西留学生会館訪問
JCIアジアコンファレンス参加（宮崎）

新年賀会

㊦ フォークランド紛争勃発
㊧ ホテルニュージャパン火災
㊨ スリランカ・モラトワ市と友好都市提携

昭和58年（1983年）

「創ろう心豊かな地域社会」



堀田 稔
92名
11名

琵琶湖ホテルレイクビワ（夏）
ホテルサンルート南千里（冬）

LD道場 LM道場
新入会員オリエンテーション

企業訪問
コンピューター研究会

春の交通安全運動 秋の交通安全運動
吹田まつり
市政懇談会
21世紀シンポジウム
（明日の吹田を創るのはあなた）
市民意識調査
行政市民会議の調査研究
記者クラブ懇談会

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「クラブ（紙飛行機）」
夢と可能性を求めて

今こそ民間外交を（留学生を迎えて）
北方領土返還全国縦断マラソン協力
JCIワールドユングリス参加（台北）
子供サマーキャンプ
（姉妹都市スリランカの子供達と）

新年賀会

㊦ 大韓航空機撃墜事件
㊧ 三宅島噴火
㊨ 非核平和都市宣言

昭和59年（1984年）

幸福への挑戦
「豊かな心と生きがいを求めて」



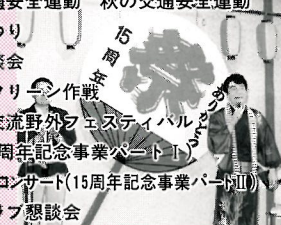
安達昌秀
77名
9名

ユニピアささ山（夏）
ホテルサンルート南千里（冬）

会員セミナー
新入会員ガイダンス
伊勢修養団練成合宿

経営セミナー
保険セミナー

春の交通安全運動 秋の交通安全運動
吹田まつり
市政懇談会
わが町クリーン作戦
三代交流野外フェスティバル
（15周年記念事業パートⅠ）
チャリティコンサート（15周年記念事業パートⅡ）
記者クラブ懇談会



なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「自転車安全教室・水鉄砲」




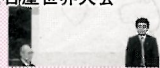
国際懇談会
児童ロックフォード派遣
ロックフォード友好協会 歓迎吹田デー
国際親善スポーツ大会
（留学生及び在日外国人を迎えて）

新年賀会
15周年記念式典



㊦ ロス五輪開催
㊧ グリコ・森永事件
㊨ 国鉄吹田操車場廃止

わが活動を振り返って

元号 (西暦)	昭和60年 (1985年)	昭和61年 (1986年)
スローガン 理事長名 会員数 (内本年度卒業生数)	「団結と躍進」 友情とふれあいの輪を上げよう!!  家村 武志 85名 11名	「明日への可能性を求めて」  足立 善信 85名 3名
家族会	宝塚ホテル (夏) 共済会館新大阪 (冬)	メナード青山 (夏) ホテルサンルート南千里 (冬) 家族ボウリング大会
指導力開発系	新入会員オリエンテーション LD道場	新入会員オリエンテーション LD広場 会員意識調査「JCアンケート」の実態
経営開発系	経営スクール 「経営意識調査」のアンケート用紙配布	経営スクール
社会開発系	春の交通安全運動 秋の交通安全運動 吹田まつり 教育懇談会 (1)学校のあるべき姿 (2)家庭教育のあるべき姿 記者クラブ懇談会	春の交通安全運動 秋の交通安全運動 吹田まつり 教育討論会 三世代交流ゲートボール大会 記者クラブ懇談会
青少年開発系	なかよしスケート大会 吹田市子供野外カーニバル 「子供自転車安全教室」 「ハガキ絵画イラストコンテスト」 「親と子」の寺合宿 家族でフィーバー「白銀にチャレンジ」 羽幌と吹田の青少年交歓会	なかよしスケート大会 吹田市子供野外カーニバル 「自転車安全教室・変形自転車・クラブ」 「親と子」のふれあいハイキング (旧あすなる100)
国際関係系	カントレイ・イン吹田 少年音楽交歓会 「音楽交歓会・ホームステイ」 	国際フェスティバル JCIアジアコンファレンス参加(釜山) JCI名古屋世界大会 
その他	新年賀会 日本JC褒賞 国際平和推進に関する運動優秀賞受賞	新年賀会
その年の主な出来事 ㊦ 世界 ㊧ 日本 ㊨ 吹田	㊦ ゴルパチョフソ連共産党書記長に就任 ㊧ つくば科学万国博覧会開催 ㊨ 文化会館(メシアター)開館	㊦ ソ連チェルノブイリ原発事故 ㊧ 伊豆大島噴火(全島民脱出) ㊨ 桃山台市民グラウンドにナイター施設完成

昭和62年(1987年)

「未知への挑戦」



柳川 義行

88名
8名

昭和63年(1988年)

「妥協なきリーダーに」

夢ある未来社会に向けて



井村 卓治

96名
12名

平成元年(1989年)

「ふりかえろう 原点を
進もう 明日に向かって」



木村 義雄

94名
14名

姫路の形汐干狩場(春)
滋賀厚生年金休暇センター(夏)
大阪全日空ホテルシェラトン(冬)

池田不死王閣(夏)
千里阪急ホテル(冬)

長浜ロイヤルホテル(夏)
大阪ターミナルホテル(冬)

新入会員オリエンテーション
LD教室 サロンアンドJCパート(I)(II)

新入会員セミナー 新入会員オリエンテーション
実践会員セミナーパート(I)(II)「真の
リーダーの実態を求めて」
会員セミナー 会員オリエンテーション

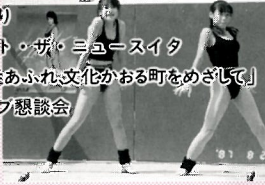
新入会員セミナー
LD道場パート(I)(II)

経営セミナー
模倣会社設立

経営セミナーパート(I)(II)(III)
異業種交流企業名簿発行

経営スクール
吹田青年経済人会議(記念事業)

春の交通安全運動 吹田市内大規模駐車
場キャンペーン 秋の交通安全運動
吹田まつり
クリエイティブ・ガ・ミュージック
「個性あふれ文化がおもむく町をめぐって」
記者クラブ懇談会



春の交通安全運動 JC交通安全キャン
ペーン 秋の交通安全運動
吹田まつり 吹田大ジャンケン大会
記者クラブ懇談会

春の交通安全運動 秋の交通安全運動
吹田まつり
=HISTORY OF JAZZ=(記念事業)
吹田さま〜らんど'89(記念事業)
記者クラブ懇談会

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「ちびっ子相撲吹田場所」
「花と緑」絵画イラストコンクール

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル
「わんぱく相撲吹田場所」
「親と子」のふれあいコンサート
関西大学OB演奏会
吹田市・羽幌町青少年交歓会

なかよしスケート大会
吹田市子供野外カーニバル「わんぱく相
撲」
わんぱくオリシピック〜きみがNo.1
(記念事業)
吹田市・羽幌町青少年交歓会—北海道で
友達をつくらう!!—(記念事業)

姉妹JC調査・研究

JCIアジア 吹田初参加式



姉妹JC締結調印式典「海洋JC」
姉妹JC締結スポーツ大会

国際セミナー「あなたのマナーは国際的？」
(記念事業)
アジア太平洋横浜会議参加
オーシャンJCとの友好事業
オーシャンJCとの交流事業

新年賀会

新年賀会

20周年記念式典



㊦ ニューヨーク株式市場大暴落(ブラッ
クマンデー)
㊧ 国鉄分割民営化実施
㊨ 総合福祉開館・保健センター開館

㊦ イラン・イラク戦争停戦
㊧ 消費税導入
㊨ ゴミ5種分別収集モデル地区で実験取
集開始

㊦ ベルリンの壁崩壊
㊧ 昭和天皇崩御
㊨ オーストラリア・バンクスタウン市と
友好都市提携



いろいろな問題があるな
うん・ん・ん
どないしたらええのかな

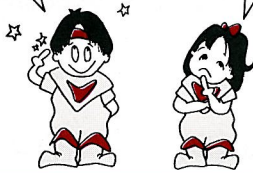


J君

Cちゃん

集めて
どうするん?

そうや!
市民を
ひとつの
集めよう!



そうね
J君だけで
しょうがないわ!

集まってもらって
いろんな問題に
関心を持って
もらうんや!
関心を
持つことが
大事なことや!



いろいろな
年のひとに
集まって
もらおう!



吹田の出来事

- 市制施行50周年を迎える
- 資源リサイクルセンター着工
- 南吹田市民体育館オープン
- 大阪モノレール千里中央-南茨木間開通
- 市立博物館着工
- 総合武道館着工
- 第1回吹田万博国際ふれあいマラソン開催
- 老人保健施設着工

1990吹田市民会議

期日 1990年7月9日
場所 メイシアター 大ホール
テーマ 高齢化問題
環境問題
資料 (社)吹田青年会議所作成ビデオ

21世紀の老人福祉について

老後の生活について

地球環境問題

ゴミ処理問題

- 各テーマごとに
1. 資料ビデオ
 2. アンケート実施 回収数 549部
 3. パネルディスカッション

コーディネーター 浜村 淳氏
市民参加人数 890名
出席団体等(順不同)
吹田市長榎原一夫氏 大阪府議会議員 吹田市議会議員
吹田市自治会連合協議会 吹田西ロータリークラブ
吹田市体育指導委員会 吹田母親大会連絡会
吹田市社会福祉協議会 吹田市老人クラブ連合会
あすの教育を考える会 吹田市健康づくり推進協議会
吹田市地区更正保護婦人会 吹田市PTA協議会
吹田市郷土研究会

1990吹田市民会議



老後の生活について

子供との生活について	
一緒に暮らす	63人
近くに暮らす	273人
時々会う	168人
離れる	23人
あなたはどんな時に生き甲斐を感じますか?	
自己表現が出来た時	84人
人との触れあいが出来た時	329人
サービス、奉仕をして	
満足感が得られた時	132人
その他	2人
ビデオで共感を覚えた一言を選んでください(3つまで)	
シルバシートは使わない	46人
使い捨てはするな、物を大切に	253人
親、老人を大切に	230人
マナーが悪い	161人
暴走族は嫌い	21人
趣味を持って	41人
友人はつくっておけ	184人
地域の為の活動をしよう	92人
自分で健康を守れ	243人
感謝が大切	230人

ビデオより
生物が誕生してから、あまりにも短い人類の歴史が地球環境を変え他の生物はもとより、自分自身を滅亡に追いやっている事実を明らかにした。
酸性雨は国境を越えてもやってくと説明
地球温暖化の原因となっている二酸化炭素(CO₂)を出すものを人間の呼吸に換算して説明
ジャンボジェット 大阪-東京間で92万人分
他方、酸素の供給源である森林資源の乱開発も、相乗効果を引き出している。
このままではあと200年で石油がなくなると説明。
不便を感じない程度の省エネ・省資源、そして棄てればゴミ、再利用すれば資源。積極的に行動すれば将来、幾多の生命、人類を生かすことになる」と説明。
この会議においては決して結論を出すのではなく、参加者各位が真剣にこれら諸問題を考える第一歩として開催した。

老人福祉について

高福祉、高負担 298人
低福祉、低負担 251人
しかし、会場内から高福祉、低負担の声があがった。つまり本来の福祉は高齢者の健康を守ることである。医療福祉はあくまで補助である。
確かに老人の人口割合が15年後には増加する。この現実を注視し、今から試行錯誤し、来るべき21世紀に備える努力をしなければならない。

ゴミ処理問題

紙の再利用について	
出来る限り再利用に	
取り組んでいきたい	455人
時には取り組む	82人
そんなことは出来ない	1人
ガラスの再利用について	
いつも心して取り組んでいきたい	395人
気が向いたら取り組む	90人
そんなことは出来ない	52人
家具の再利用について	
積極的に取り組んでいきたい	99人
負担にならない程度に取り組む	334人
全く考えていない	112人

地球環境問題

車の利用について	
仕事以外には使用しないようにしている	68人
仕事・通勤以外には使用しないようにして	4人
私用においても出来るだけ利用を控えている	306人
別にそんなことはしていない	170人
冷暖房について	
節約するすように努めている	347人
時々節約するように努めている	175人
別に節約していない	21人

**吹田市制施行50周年記念事業
吹田鉄道フェスティバル**

準備期間 1990年7月16～19日
実施期間 1990年7月20～24日

ビールケース 5,000個使用による



市民参加人数 6,789名 (5日間)
会員参加人数 216名 (5日間延べ)

J C 巨大迷路

社 会 関 関

タイムトライアル (スタンプラリー)
吹田市内の鉄道駅名を使用

- ・吹田・岸辺・江坂・桃山台・北千里
- ・山田・南千里・千里山・関大前・豊津

グリーンアドベンチャーすいたDAY

期 間 1990年9月15～16日
場 所 国際花と緑の博覧会会場 (現鶴見緑地)
内 容 花博来場記念として手形作成 (杉板)



春の交通安全運動

早期キャンペーン
期日 1990年4月6日
場所 地下鉄江坂駅前
たそがれキャンペーン
期日 1990年4月12日
場所 阪急吹田駅前

秋の交通安全運動

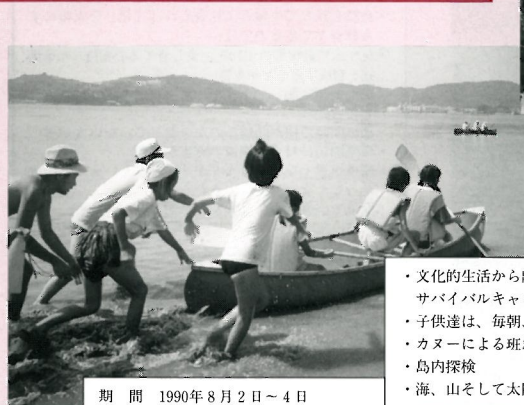
早期キャンペーン
期日 1990年9月21日
場所 地下鉄江坂駅前

大吹田まつり

期 間 1990年7月28～29日
場 所 28日千里南公園
29日旭町通り
内 容 28日前夜祭 生き残りゲーム
29日本祭 本部運営



**子供に夢と感動を与える自然との遭遇
無人島サバイバルキャンプ**



- ・文化的生活から離れた無人島(黒島)でサバイバルキャンプを実施。
- ・子供達は、毎朝、日記をつけた。
- ・カヌーによる班対抗競争を実施。
- ・島内探検
- ・海、山そして太陽に囲まれたロケーション

期 間 1990年8月2日～4日
場 所 岡山県久郡牛窓町牛窓黒島
参加者 吹田市内小学校5年生～中学1年生
男子24名 女子16名 合計40名

青少年 関 関

なかよしスケート大会

期 日 1990年2月10日
場 所 ミリカスケートリンク
松柏学園 44名
常照園 34名
合計 78名

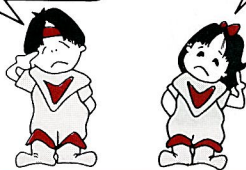


**吹田市子供野外カーニバル
わんぱく相撲**

期 日 1990年5月6日
場 所 吹田市青少年野外活動センター
市民参加者 小学校1・2年生 84名
3・4年生 96名
5・6年生 43名
合計 223名

市民会議で
せっかく
市民が関心を
持ってくれている
このまま
終わってしまうのは
ちやうど？

「J C はと
単年度制やし
引き継ぐのは
むづかしいん
のちやうど？」



もったいな～



二世のリーダーシップを考えるパートⅡ

期 日 1990年10月12日
場 所 サニーストンホテル

講師 田舞徳太郎氏 (日本創造教育研究所)

二世のリーダーシップを考えるパートⅠ

期 間 1990年3月24日～25日
場 所 みのたにグリーンスポーツホテル

プログラム「ニューLIA」
New Leadership in Action
自己分析と目標設定を行いながらトレーニング

オーシャン J C との交流事業

期 間 1990年8月24日～26日
場 所 吹田市立南吹田市民体育館 他
出席者 オーシャン J C 23名
吹田 J C 111名 (3日間延べ)

国際関係



留学生との交流事業

期 日 1990年4月15日
場 所 吹田市青少年野外活動センター
留学生 28名 (吹田市内在住)
たけのこ狩り
地球井戸端会議：テーマ<環境問題>

指導力開発

経営塾

期日 1990年4月24日
場所 サニーストンホテル
内容 近年のOA化が進む中、初めてパソコンを
扱う会員を対象としてこれからの会員各企業
での導入に役立てた。

経営開発

L D タイム

期 間 1990年2・3・4・5・7・9・10・11月
場 所 各月例会場

ディベート法によるディスカッション

夏の家族会

期 間 1990年7月14～15日
場 所 近江八幡国民休暇村
会 員 47名
婦 人 29名 子供 51名

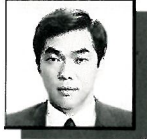
家族会

クリスマス家族会
期 日 1990年12月22日
場 所 ホテルサンルート南千里



春の家族会

期 日 1990年4月22日
場 所 高槻森林観光センター



第22代理事長
橋本 浩

1991 平成 3 年

会員数 119名
新入会員 22名
卒業生 8名

限りない未来・それは青年の夢 -明日の地域社会のリーダーに-

吹田まちづくり・ 人づくり市民サミット

期日 1991年10月19日
場所 さんくすホール
目的 地域社会における各種団体との
ネットワークづくり

- 出席団体(順不同)
- 吹田市長 岸田恒夫氏
 - (財)吹田市健康づくり推進事業団
 - 吹田市PTA協議会
 - 吹田市老人クラブ連合会
 - 吹田商工会議所
 - (社)吹田青年会議所
 - 吹田市議会議長 上野和明氏
 - 吹田市職員労働組合
 - 吹田市自治会連合協議会
 - 吹田市子ども育成協議会
 - 吹田市社会福祉協議会



円卓会議 <要旨>

- 昔は何でも自分でしなければならなかったのが健康的だった。今は便利になりすぎている
- 物に対する感謝の気持ちが薄れている
- 昔と比べると今の子供は贅沢になっている
- 昔の様な子供の遊び場としての空き地がない
- 命を大切にしない子供が増えている
- 命を大切にすることが必要
 - 命(自分を含め他人や他の生物)
- 相手の気持ちを考えない子供が多い
- 変な個人主義が幅を利かせている
- 権利は主張するが義務は果たさない子供が増えている
- 親子のコミュニケーション、親子の信頼関係が一番大事
- その意味でも親が率先して子の模範となる必要がある
- 子供の教育も大事だが親も勉強しなければ
- 思いやりの心、他人の痛みが分かる心の教育が必要
- 自然を残して生命とふれ合えれば「命」を大切にすることが出来る
- 花や虫や動物等の生物を、愛し育てる心を持った子供達を育成することが重要
- 環境問題に関しても早くスタートラインに立ったところ
 - 環境問題で何が問題なのか分かっていない人が多い
 - 環境問題に対する施設の充実が必要
 - 環境が悪くなるのは人々が「迷惑」ということが分からなくなってきたから
 - 環境を改善するには大変な手間と暇がかかる
 - 東京の丸の内のあるビルでは共同で紙を回収することによって安くあげている。
- 要は手間をどれだけ我慢するかである
- 子供会の廃品回収にしても子供が怪我でもしたら、大人が全部やっている。このあたりにも問題がある。
- 家庭での廃棄物での環境破壊に対する啓蒙が必要
- 一度、組織的にゴミの回収をやってみては？

各団体の「夢」を発表。
円卓会議にて各団体の「夢」に対しての討論会。
その後、9テーブルに分かれてバスセッションを
行い、共同声明を出した。



討論会 <要旨>

- 街づくりはその街の特色を生かしたものの
- 緑の保全、住環境の整備
- 川の汚染の問題
- 週休2日制導入による地域奉仕のためのネットワークづくり
- 家庭教育の必要性
- 「共育」の原点は親子の信頼関係から
- 高齢者自身が自立して知識や経験を活かして社会に貢献する必要性
- 生き甲斐や健康づくりに対する意識改革の必要性
- 高齢者と家族の在り方考える
- 「健やかに老いる」ためのメディカルチェック施設の充実
- 絶滅する生物があれば人類も滅亡する可能性がある
- 自然破壊を止めて地球に緑を取り戻すことが大切
- 緑を取り戻すにはひとつひとつ地道な努力が必要
- 「すばらしい吹田」を子供達に残してゆきたい

各団体の話の中で共通した単語
「教育」「親子」「地域」「環境」

・それぞれ1つだけの団体では解決できない問題が複雑に絡み合っていて共有していることを実感
・各団体がお互いをまずよく知り、そして市民のみなさんに、我々の活動をもっと理解してもらう必要性がある
・参加した人、一人一人が吹田を愛する気持ちから住み良い、人情味にあふれた暖かいまちにしたいと考えている
・世代を越えて心の底から「ひとつくり」ひいては「まちづくり」のための建設的な意見を出し合えた

吹田まちづくり人づくり市民サミット



共同声明

吹田まちづくり人づくり市民サミット
「ひとつくり」ひいては「まちづくり」

ふいふ視野から待たれ吹田を愛する者
には諸団体の意見交換が重要である
思いを語り、心をつなぐ活動が相乗
効果を生み出すと信じて、共に活動し
進んで行くことを誓います。共に活動し
あり明日の吹田をより良くする為
今後このサミットの継続を希望します。

一九九一年十月十九日

吹田市長 岸田恒夫氏
岸田恒夫氏 第14代市長に就任
岸田恒夫氏 総合運動場着工
吹田ケーブルテレビジョン開局

財団法人吹田市国際交流協会発足
財団法人健康づくり推進事業団発足

吹田青年会議所
吹田市PTA協議会
吹田市老人クラブ連合会
吹田市職員労働組合
吹田市社会福祉協議会
吹田市自治会連合協議会
吹田市子ども育成協議会



吹田の出来事

- 財団法人吹田市国際交流協会発足
- 財団法人健康づくり推進事業団発足
- 岸田恒夫氏第14代市長に就任
- 総合運動場着工
- 吹田ケーブルテレビジョン開局

吹田まちづくり人づくり市民サミット
共同声明

ふいふ視野から待たれ吹田を愛する者
には諸団体の意見交換が重要である
思いを語り、心をつなぐ活動が相乗
効果を生み出すと信じて、共に活動し
進んで行くことを誓います。共に活動し
あり明日の吹田をより良くする為
今後このサミットの継続を希望します。

一九九一年十月十九日

吹田市長 岸田恒夫氏
岸田恒夫氏 第14代市長に就任
岸田恒夫氏 総合運動場着工
吹田ケーブルテレビジョン開局

財団法人吹田市国際交流協会発足
財団法人健康づくり推進事業団発足

吹田青年会議所
吹田市PTA協議会
吹田市老人クラブ連合会
吹田市職員労働組合
吹田市社会福祉協議会
吹田市自治会連合協議会
吹田市子ども育成協議会

「楽しさいっぱい!!交通広場」 & 「セーフティライダースクール」

期日 1991年6月2日
 場所 吹田自動車教習所
 主催 「交通事故をなくす運動」吹田市推進協議会
 (吹田市、吹田警察署、吹田交通安全協会)
 (社)吹田青年会議所
 後援 東京海上火災保険(株)
 協力 大阪府警察本部白バイ隊、吹田二輪普及協会、
 吹田自動車教習所、関西サイクルセンター
 市民参加 573名

プロレーシングチーム「チームマリ」の指導
 井形マリ氏、井形とも子氏
 教習所内に二輪車用の特設コースで実地安全運転講習
 ・直線バイロスラローム
 ・一本橋走行
 ・八の字
 ・クランク

セーフティライダースクール



交通安全ビデオコーナー
 交通安全ポスター展
 ラジコンカーコーナー
 交通安全ファミコンコーナー
 チームマリサインコーナー
 モータースポーツビデオコーナー
 変わり種自転車コーナー
 運転適正検査コーナー
 メモリアルフォトコーナー
 飲食物販売コーナー

親子ふれあいセミナー

期日 1991年7月14日
 場所 吹田勤労者会館
 市民参加者 172名
 会員参加者 49名
 合計 221名
 講師 高橋 敷氏



基調講演より 子育てを花にたとえて言いますと、
 花にも色々あって、毎日水をやらなければいけない
 もの、あまり水をやってはいけないもの等、その花
 にあった水のやり方が大切です。花の気持ちを分か
 らずに水をやりすぎて腐らせたり、水をやらずに枯
 れさせてしまったりしていませんか?花の気持
 ちは我々には分かりませんが、花にたとえた子供の
 気持ちは分かると思えばいくらか方法がある
 とあります。気持ちを理解し合うための、ふれあ
 いが大切ではないでしょうか? 過保護でひ弱な花の
 ような子供よりも、雑草のような逞しさを持った子
 供が多く育ってほしいと思います。

子供の成長(思考)は早いものです。この早さに親
 がついていけないのでしょうか? 親の成長がスト
 ヱップしたままでは、成長の早い子供達の問題を解決
 する事は出来ず、ただおろおろするばかり。子供の成
 長に親がついていけないように、努力することが大切
 だと思います。

吹田まつり
 期日 1991年7月27-28日
 場所 7月27日 江坂公園他
 28日 旭町通り商店街

「チームマリ」 インタビューより

事故が起こる原因は運転技術の未熟から。
 だから、運転技術を高める事が事故発生を
 防ぐ事につながる。
 二輪車は誤った乗り方をすると大きな事
 故につながるがある反面、安全走行を
 心がければ楽しいモータースポーツである。



社 会 発

サマーアドベンチャー スクール

期日 1991年8月2-4日
 場所 奈良県宇陀郡曾爾村地先
 曾爾高原キャンプ場
 吹田市内小学生 16名
 会員 24名

スクール内容
 竹の食器作成(箸、ひしゃく、椀等)
 手旗信号
 ロープの結び方
 スイミングスクール(川遊び)
 キャンプファイヤー
 ハイキング(山登り 往復1時間40分)



山奥で、文化的要素は皆無。
 山!川!高原!

青 少 年 開 発



なかよしスケート大会
 期日 1991年2月2日
 場所 ミリカスケート場
 松柏学園 40名
 常照園 32名

吹田市子供野外カーニバル参画
 わんぱく相撲

期日 1991年5月5日
 場所 吹田市青少年野外活動センター
 協力 関西大学相撲部
 吹田市内小学生 345名



経営 開 発

経営開発スクール
 期日 1991年6月30日
 場所 サニーストンホテル
 講師 柴沼 和廣氏
 内容 MIA
 Management in Action
 実践経営開発

意志の疎通を高める事業 その1
 「心」の鍛錬

期日 1991年5月11-12日
 場所 (財)修養団 伊勢道場
 参加会員数 30名
 リーダーシップ
 愛情友情人情を基本に「人間の
 尊重」「思いやり」を実践
 的に学習

指 導 力 開 発

LDタイム
 期日 1991年2・3・4・5・7
 9・10・11月例会日

場所 月例会場
 3分間スピーチ テーマ「私の専門」

意志の疎通を高める事業 その2
 大いに語ろうLD茶論

期日 1991年9月7日
 場所 モンダルジャン
 大討論(大開論)
 総会以外での理事と一般メンバーと
 の思慮のない意見交換

クリスマス家族会

期日 1991年12月21日
 場所 パッスルホール
 会員 54名 婦人 30名 子供 53名
 ライブ J.C.バンド結成
 (吹田J.C.メンバー有志)

国 際 関 係

オーシャンJ.C.との姉妹提携継続調印式及び
 オーシャンJ.C.との交流事業
 期日 1991年9月21-24日
 場所 香港



調印式 永年的な調印
 ボードミーティング
 9月22日 於:オーシャンJ.C.事務局役員室
 議題 子供交換プログラムの今後
 交流活動の今後

スポーツ交流
 綱引き

夏 の 家 族 会

期日 1991年8月24-25日
 場所 兵庫県洲本市淡路観光ホテル
 会員 52名 婦人 30名 子供 56名
 婦人の集い
 大運動会 於:古茂江浜海水浴場
 ・綱引き・棒倒し・騎馬戦

家 族 会





サミットは
結成できたけど
何をしたら
ええのかしら？
みんな
バラバラのこと
言うてるわ



なにを
言うてるんや！
もう一度
市民会議を
思い出して
市民一人一人が
共通することが
あったやろ！



ゴミの問題
かしら？



そうや！
家庭から
ゴミなんか
5種分別で
なるとか
ポイ捨て
あれを
なんとかせ
あかん！



吹田の出来事

- 老人保健施設オープン
- 平和祈念資料室オープン
- 資源リサイクルセンターがオープン
- 市立博物館オープン

レッツ・クリーン・マイ吹田



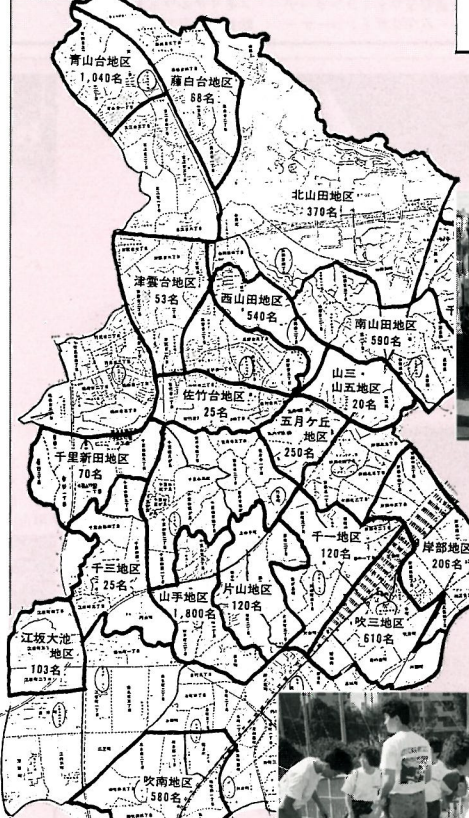
主催 市民一斉清掃実行委員会
(財)吹田市健康づくり推進事業団 吹田市社会福祉協議会
吹田市職員労働組合 吹田市PTA協議会
吹田市自治会連合協議会 吹田市老人クラブ連合会
吹田市こども育成協議会 吹田商工会議所
(社)吹田青年会議所
以上 吹田まちづくり・人づくり市民サミット

共催 吹田市
後援 吹田市教育委員会

期日 1992年9月20日
場所 吹田市全域
参加者 市民 6,997名

- レッツクリーンマイ吹田
協賛企業
アサヒビール株式会社
株式会社伊藤塗料店
井村楽器
近畿コカ・コーラ
ボトリング株式会社
吹田さんくす名店会
商業協同組合
吹田ヤクルト販売
株式会社
千里山バス株式会社
株式会社グイエー
株式会社グアキン
日本たばこ産業株式会社
日本電気株式会社

参加小学校区(順不同)
青山台地区 藤白台地区 北山田地区 東山田地区
津雲台地区 西山田地区 南山田地区 山三・山五地区
佐竹台地区 五月ヶ丘地区 千里新田地区 千三地区
山手地区 片山地区 千一地区 岸辺地区
江坂大池地区 吹三地区 吹南地区



メイン会場 JR吹田駅前さんくす広場
本部
空き缶プレスカーによるイベント
アルミ缶 108.5kg
スチール缶 40kg を約2時間で処理
コンピューターゲーム



各種団体との交流事業
期間 1992年 2/7、3/11、4/2、5/26
7/30、8/25、8/28
場所 サニーストンホテル、吹田市役所
出席者 会員延べ40名、各種団体延べ64名
内容 吹田まちづくり人づくり市民サミット
今後の運営方針の決定
「レッツクリーンマイ吹田」に対する
実行委員会

清掃デモ
午後より、吹田市職員労働組合とJCメンバーが
さんくす広場→阪急吹田駅→江坂公園まで掃除を
しながら約2時間のデモをした。



- 第1回市民サミット会議 2月7日
「レッツクリーンマイ吹田」を提案
各代表は自身の所属団体の協力を得る為に持ち帰った。
- 第2回市民サミット会議 3月11日
具体的内容を提案
当会議を実行委員会とする承認を得る
○以下市民サミットは市民一斉清掃実行委員会となる
- 第1回市民一斉清掃実行委員会 4月2日
日程決定 9月20日
1 清掃単位を1自治会とし、各地区で自由に清掃を行う。
集積場所については市衛生1課に一任
- 第2回市民一斉清掃実行委員会
実施要項及び趣意書を連合自治会長に提出することを決定
それに伴い地区ごとに代表者及び実行委員を決定してもらい、
当日の運営に当たってもらうこととする。
- 第3回市民一斉清掃実行委員会 5月26日
小学校地区の単位で決定するが地区実行委員会における担当
者並びに委員会開催要請については調整役がいるということ
で、JCが各自治会に向いて説明することになる。
また、午後の船についてはリサイクルセンター見学の予定で
あったがオープンがずれこむということで、JCが、主催す
ることになった。
○JC内部での実行委員会結成 6月8日
- 第4回市民一斉清掃実行委員会 7月30日
参加地区の決定が遅れているため地区代表会議を延期決定
- 第5回市民一斉清掃実行委員会 8月25日
地区代表全体説明会の打ち合わせ及び当日の運営方法の説明
市民一斉清掃地区代表者全体説明会開催 8月28日
集積場所・方法の具体的説明

フレンド・オブ・マインド イン 吹田

吹田まつり
期 間 1992年8月23日
場 所 旭通り(本祭)
内 容 J C御典



期間 1992年8月20~24日
場所 20日 サニーストンホテル
21日 松下電器炭木テレビ工場
吹田市青少年野外活動センター
22日 旭通り商店街
23日 各ホームステイ宅
参加者 香港子供 10名
吹田在住の外国人の子供 9名
及び小学生31名
香港 J Cメンバー 6名

香港の子供達10名とオ
ーシャン J Cメンバー6
名を先頭に J C御典をく
りだした
J C御典 ミニ地球をの
せ、地球環境を守る重要
性を吹田市民にアピール



・野外活動センターで寝食を供にする。
・8班に分けチーム名を考えてもらい団結
・班対抗のスポーツ大会 ・餅つき ・キャンプファイヤー
ボートホール ドッチボール ・映画鑑賞「地球環境」

国際 関係



オーシャン J C とメンバー交流事業
期 間 1992年5月25~27日
場 所 サニーストンホテル
豊中千里体育館
ホテルサールート南千里
香里能楽堂
出席者 91名

カントレイ少年合唱団来吹
期 間 1992年6月11~18、21日
場 所 サニーストンホテル
吹田第一小学校
吹田第三中学校
ホテルサールート南千里
ETC.

カントレイ少年合唱団 FARE WELL PARTY



吹田第一小学校にて給食体験、音楽授業体験
吹田第三中学校にて合唱、バスケ交流試合、
ホームステイ等

人を活かすための経営方法の研究
“好ましい企業文化”
期 日 1992年9月5日
場 所 さんくすホール
参加者 吹田市民 21名
会 員 47名
講 師 大井 清氏
テマ 経営戦略と好ましい企業文化
(被雇用者側からみた)

経営 開発

同じ釜のめし
期 間 1992年4月11~12日
場 所 防衛庁自衛隊伊丹駐屯地
出席者 24名
内 容 自衛隊員との懇談
救助活動
体力測定

指導力 開発

切磋琢磨パート I
期 日 1992年6月11日
場 所 サニーストンホテル
出席者 27名
内 容 新入会員セミナー
基礎用語についての設問



このもの時から
環境問題を
身近なことに
考えるのは
大切な事やと
思うわ！

このもの時にも
地球環境のこと
知らせておこう！

環境問題を
もっと
近所のことに
思っ
てみる
ように
できな
いかな？



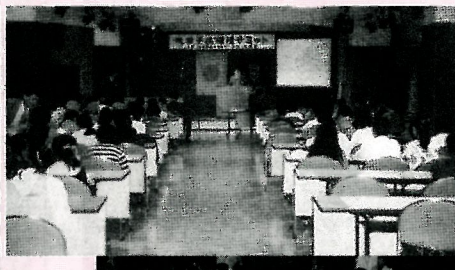
こないだ
道を歩いて
橋の上から
見える川が
きたなかつたわ！



それや！
いつまで
見ればど
思わなく
そういっ
てみよう



すいた子供環境サミット



グループに分かれてテーブルディスカッション
テマ 川や自然の緑地
公園や遊びについて

自然とは人として一番大切な心を育む場
自然は遊びや学問を教えてくれる先生
このセミナーを吹田から地球規模の自然について
考えてみるきっかけにしてほしい
街が開発されることは悪いことではない
ただ、本当の意味の自然と人間の調和を考えてほしい

社会 開発

1992考えよう、ふるさと地球

ビデオ上映
現状の環境破壊問題 (吹田 J C 製作)
・ 二酸化炭素 ・ フロンガス
・ 森林伐採 ・ 水質汚染
スライド上映
「地球の秘密」 故坪田愛華ちゃんのマンガ
(岡山ブロック製作)

図書館の本の中からアース君が飛び出し地球の
歴史や自然のバランス、酸性雨、オゾン層のこ
とを説明し地球の大切さを教えてもらい、友達と一
緒に空き缶集めや、リサイクル運動を始める「少
女」の物語。

期 日 1992年10月25日
場 所 吹田市立山田小学校体育館
参加者 吹田市内小学生58名

テマ 環 境 問 題
水質汚染
一般家庭排水



演 劇 環境問題《水質汚染》

脚本・キャスト：吹田 J C メンバー
小学生の少年2人が下校途中でいつも通る
橋の上から随分汚れた川をながめながら水の
汚染について勉強したことや、昔の川はも
っときれいだったこと、生活排水の
水質汚染のことを考え自分たちの家でも
何か工夫しようという内容。



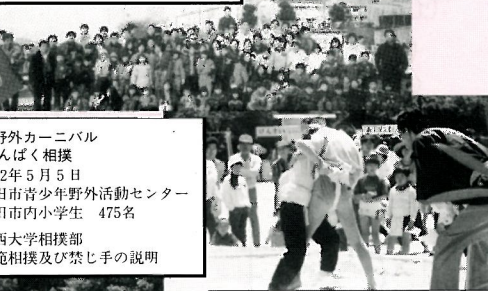
市内小学生による作文発表
テマ 「僕達にもできること」

吹田メッセージ
私たちが住むこの地球という惑星に最初の生命が誕生
したのは、少なくとも30億年以上前といわれています。
その後、生命は気の遠くなるような時間をかけて進化
発展を遂げ現在に至りました。
陸に、海に、空に実に多種多様な生きものたちが現在
の地球上には同居しています。
これらの生きものたちは、みな私達人類よりも長い歴史
をもつ種族達なのです。
私たちは、過去のできごとを知ることはできません。
しかし、学ぶことはできます。先輩の種族たちの生態や
生活を観察し、学ぶことで、時間の流れを過去へとおい
やり、生命の歴史を疑似体験することができます。
遠い過去から現在、そしてはるか未来へと打ちつけら
れるであろう生命の鼓動をたどりつつ、

しかし、我々は高度で便利な文明と引き替えに、母なる
地球を締めすぎてしまったのではないのでしょうか。過
去は変えることができません。大自然の鼓動が刻む時の
流れは、常に未来を目指しています。今や自然界に大き
な影響を及ぼす存在となってしまうました。私達人類に
対しての全責任がかかっている、ということを確認する
ことからすべてが始まるのではないのでしょうか。大自然
の内なる鼓動に耳を傾け、身をゆだねながら・・・
私たちは声を大にして呼びかけたい
EARTH OUR HOME ふるさと地球に

青少年 開発

なかよしスケート大会
期 間 1992年2月1日
場 所 ミリカスケート場
出席者 129名
・常照園、松柏学園の生徒を招いて交流



吹田市子供野外カーニバル
わんぱく相撲
期 日 1992年5月5日
場 所 吹田市青少年野外活動センター
参加者 吹田市内小学生 475名
協 力 関西大学相撲部
模範相撲及び禁止手の説明

3人抜きでメダル授与 34名
体力測定コーナー
1輪車、握力、懸垂、ホッピング
各学年ごとに、4種目による得点
合計の上位者にメダル授与

家族会

夏の家族会
期 間 1992年7月25~26日
場 所 三重県志摩郡大王町「リゾートパーク」
出席者 137名
内 容 プールを利用したゲーム
プールサイドでバーベキュー

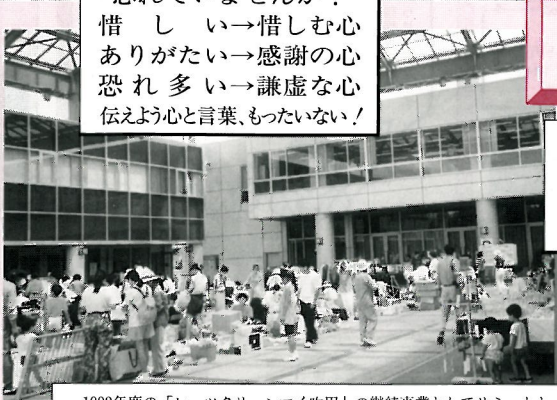


クリスマス家族会
期 日 1992年12月25日
場 所 大阪ヒルトンホテル



まちの声を反映し、地域に根ざした事業
エコスポ'93参画
もったいない運動

期 日 1993年 8月22日
場 所 吹田市資源リサイクルセンター内
くるくるプラザ
出席者数 一般 5,000名、会員 28名、家族 50名
吹田市まちづくり・人づくり市民サミット
資源のリサイクル



1992年度の「レッツクリーンマイ吹田」の継続事業としてサミットとして今、リサイクルが「すべきな事業」であるという点、また、本年度日本青年会議所が推進している「もったいない運動」を企画、実行した。

1. 資源がもったいないコーナー
実例をあげ、またクイズ形式でリサイクル、省エネを訴えた
2. 眠っているものももったいないコーナー
中元、歳暮などももらったものを、交換及び販売する
3. 外国では売れるのにもったいないコーナー
使用済みテレホンカードを集め「サークル・バハギア」を通じて、恵まれない子供たちの為に、役立ててもらった。
4. 私はほしいのにもったいないコーナー
いらなくなったもの同士を交換してもらった。
5. 食べられるのにもったいないコーナー
形の悪い規格外の野菜を安く販売した。
6. 情報交換がないものももったいないコーナー
各団体の催し物や教室などの情報、また「お年寄りの知恵」を掲示した。また、アンケートによる市民意識調査も行った。
7. いらぬボックスコーナー
いらぬものの交換をおこなった。
8. ビデオコーナー
「THEもったいない」と1990吹田市民会議のビデオ放映
9. アンケート・景品引き替えコーナー
エコロジー商品を配布した。

もったいない館



アンケート結果

家庭でどんな話がおおいですか？
 20代 ・学校の話 ・友達の話 ・趣味の話
 30代 ・学校の話 ・友達の話 ・趣味の話 ・今日の出来事
 ・ニュース
 40代 ・学校の話 ・友達の話 ・ファッションの話 ・テレビの話
 ・勉強の話

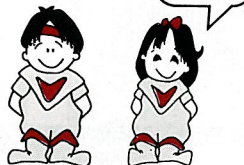
お子さんとどんな遊びをしますか？
 20代 ・外遊び ・ピンポン ・線路遊び ・鬼ごっこ ・本読み
 ・音楽を聞く
 30代 ・トランプ ・ボール遊び ・ファミコン ・虫とり ・砂遊び
 40代 ・屋外遊び ・スポーツ ・読書 ・テレビ ・旅行
 ・ファミコン ・買い物

今後お子さんに対して、どんなことをしてあげたいですか？
 20代 ・良き協力者 ・自由にさせてあげたい
 ・スポーツ ・あちこちにつれてあげたい
 ・のびのびと育てる環境を作ってあげたい
 ・今まで自分が生きてきて良かったと思うことすべて
 30代 ・のびのびと育つ環境作り ・自立心を養う
 ・いろんな所へ連れて行ってあげたい ・もっと一緒に遊びたい
 ・本人の希望どおり ・一緒に勉強できるように
 ・子供らしく自然に ・友達作り
 ・会話の時間を多くとる
 40代 ・手作りのおやつ ・やりたいことにチャレンジさせたい
 ・キャンプなどに一緒にいく ・色々な経験をさせたい
 ・スキップをはかりたい ・良き相談相手
 ・自然を残してあげたい ・自分の出来ることすべて
 ・身体ともに健全な成長を手助けする
 ・目に見えない本当の大切なもの「幸福」についてしっかり教えたい
 ・何事も話し合えるようにしたい ・自分自身が子供から自立したい

10年後にはどんな町になってほしいですか？
 20代 ・緑あふれる個性豊かな町 ・ごみのない町
 ・健康に暮らせる町 ・のびのびとした町
 30代 ・下水道、道路の整った町 ・緑が多い町
 ・思いやりのあるやさしい町
 ・車や自転車に気を遣わず歩いたり遊んだりできる町
 ・教育の充実した町 ・きれいで無公害な町
 ・福祉施設の充実した町 ・きれいな町並みの町
 ・今のままでよい
 40代 ・老人の住みやすい町 ・緑の多い町
 ・もっと美しい町 ・相互扶助精神の強い福祉の町
 ・住みよい文化的な町 ・安全な町
 ・自然が残っていて人と人とが交流できる場がある町
 ・自然と調和のとれた町 ・福祉施設の整った品格のある町
 60代 ・きれいな町 ・パートの退職金制度の完全実施出来る町
 ・住みよい町 ・緑が多く犯罪ゼロの町
 ・社会福祉やボランティアが当然と思う町 ・このままで良い
 70代 ・以上に住みよい町になってほしい

忘れていませんか？
惜しい→惜しむ心
ありがたい→感謝の心
恐れ多い→謙虚な心
伝えよう心と言葉、もったいない！

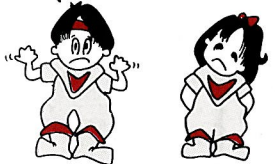
それはそうと
最近問題ばかり
やっつてるね



それは
あたりまえや！
いくら運動しても
良くならへん！
使えるものまで
すててる！



野菜なんかも
規格外のものが
すててるし！



こないだ
大型ゴミの日に
通りがかったら
まだ
たくさんあったよ！
使えそうなのが



もったいな～



吹田の出来事

市立武道館オープン
市立さんす図書館オープン
竹見台児童センターがオープン



MOTTAINAI

ドッジボールSUITA・JCカップ



期 日 1993年9月12日
場 所 吹田市下水処理場グラウンド
参加団体 26チーム
目 的 市民がスポーツを通じて、お互いの親睦をはかることによって、より豊かな町を創造したい。そのために、われわれJCメンバーと同年代の市民誰もが気軽に参加しやすいドッジボールを企画した。ルールは日本ドッジボール協会に準拠し、トーナメント形式で行った。

レッツクリーンマイ吹田
「GOOD OF KINKI」賞受賞

期日 1993年9月18日
(社)日本青年会議所近畿地区フォーラムにおき、吹田まちづくり人づくり市民サミット主催の、レッツクリーンマイ吹田一市民一斉清掃(1992年9月20日開催)が「GOOD OF KINKI」賞を受賞。
この賞は近畿地区2府4県(103青年会議所)において優秀な事業に対して贈られるものである。



吹田まちづくり・人づくり市民サミット
期日 1993年4月3日、6月26日、7月12日
場所 千里リサイクルプラザ、吹田市役所
エコスポ'93への参画

出向者ホウレントウ大会
期日 1993年5月18日
場所 サニーストンホテル
会員 89名、新入会員 3名
LOMを上げた出向者支援の姿勢を、前面に出した

吹田操作場跡地問題 (ハーモニックシティー)
吹田の21世紀を創造することにおいて旧吹田操作場跡地(86ヘクタール)の利用計画を考えた。

吹田まつり
期間 1993年7月31日、8月1日
場所 千里南公園、エスコタウン、旭町通り

吹田市子供野外カーニバル
わんぱく相撲



期 日 1993年5月5日
場 所 青少年野外活動センター
参加者 吹田市内小学生 350名、会員 45名
協 力 関西大学相撲部
通常の練習、子供達との申し合い

青少年
開発

矢倉 本格的な大工(メンバー)の手による
手形 5人抜き者には横綱
4人抜き者には大関
3人抜き者には関脇のそれぞれを印刷し本人の手形を色紙にスタンプ

なかよしスケート大会
期日 1993年2月6日
場所 ミリカスケートリンク
常照園 34名、松柏学園 30名
会員 41名



日港児童交流計画'93

期間 1993年8月21日~24日
場 所 香港
対象 吹田市在住の子供
子供10名、会員9名
内容 吹田市在住の子供たち(小4~小6)を対象に香港オーシャンJ.Cの会員宅へ、ホームステイする事業を行った。



指導力
開発

L D タイム委員会対抗スピーチ合戦
期間 1993年2・3・4・5・7・9・11月例会
場 所 例会会場
3分間スピーチを委員会対抗で行った

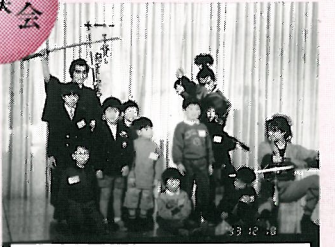
夢実現ドリカムセミナー パートI
期 日 1993年5月16日
場 所 サニーストンホテル
会員者数 39名
目 的 ビジョンを明確にすることによって、何事にもチャレンジし行動できる会員を育成する。

夢実現ドリカムセミナー パートII
期 日 1993年9月10日
場 所 サニーストンホテル
会員者数 64名



家族会

夏の家族会
期 日 1993年7月10日
場 所 クルージングレストラン
<シルフィード>
参加者 会員 54名、家族 64名



クリスマス 家族会
期 日 1993年12月18日
場 所 ホテル阪急インターナショナル
参加者 会員 68名、家族 91名

国際
関係



25周年記念事業

市民と共に行動する事業
ひらけひろがれ花の街、すいた



吹田の出来事

総合運動場オープン

市民ふれあい園



期間 1994年1月～9月
場所 吹田市全域
吹田市
吹田商工会議所
西南吹田企業協議会
(財)大阪21世紀協会



期 間 1994年4月29日～9月
場 所 吹田市南吹田5丁目3番4号
<由上フサエ様所有地>
市民参加 54名

期日 1994年9月9日
場所 豊津公園
プランター、花をライトアップして飾る
・緑化啓発基金で購入したもの
・フラワーボランティアが育てたもの
・ふれあい園の花
・緑化公園事務所購入のもの
ジャズ生演奏(雨天時中止)
飲食店(雨天時中止)

フラワーテラス
～ひと夜の夢～

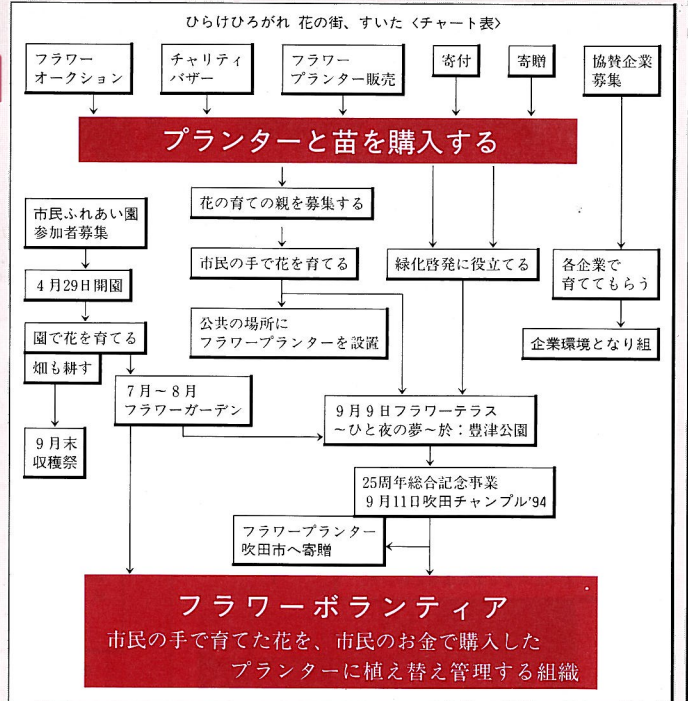
緑化啓発基金バザー

期日 1994年4月24日
場所 南吹田下水処理場グラウンド
ドッジボール
第2回SUITAJCカップ会場

期日 1994年5月14,15日
場所 メイシアター
吹田産業フェア会場



期日 1994年7月30日
場所 万博公園お祭り広場
吹田まつり前夜祭会場



経 営 発 展

経営セミナー
魅力的なリーダーになったんや
期日 1994年6月18日
場所 サニーストーンホテル
ストロークとディスカウント

指導力セミナー
ACTION NOW TOGETHER
期日 1994年7月12日
場所 サニーストーンホテル
右脳活性化による潜在能力開発

吹田まちづくり・人づくり市民サミット
期日 1994年5月21日、8月3日
場所 吹田市役所

家族会
期日 1994年5月14,15日
場所 岡山県吉備高原「たけの森」
参加者 会員43名、家族67名
BMXタイムアタック
竹細工、飯ごう炊さん



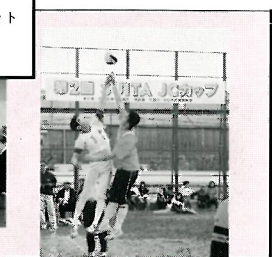
家族会



指 導 力 開 発



社 会 開 発



ドッジボール大会第2回SUITAJCカップ
期日 1994年4月24日
場所 南吹田下水処理場グラウンド
参加チーム29チーム

吹田まつり

主催 吹田まつり振興協議会
後援 (財)大阪21世紀協会

前夜祭

期日 1994年7月30日
場所 万博公園お祭り広場

- ・ワールドミュージックフェスティバル
- ・高石ともやオンステージ
- ・楽市楽座
- ・バザー(環境づくり緑化啓発基金)
- ・吹田夜市コーナー
夜店、大道芸、飲食店



25周年記念事業

平成の船渡御

天王丸の由来は「高浜神社」の地を江戸時代天王島と呼び、神崎川の増水時、御輿が流れ着き、御旅島の甚左エ門さんの「こえふね天王丸」が引き上げ、高浜神社の御輿としたことによる。

本祭
期日 1994年7月31日
場所 高浜神社～旭通り商店街



復興というよりはむしろ新生と呼ぶべき船渡御の陸渡御行列を史実に基づき再現。(1931年より)船渡御のシンボルである御座船(天王丸)をお迎え船、武者行列で取り囲みパレード。パレード全長約50M。

社会
関
発

25周年総合記念事業

吹田チャンプル'94

期日 1994年9月11日
場所 吹田資源リサイクルセンター
<くるくるプラザ>

リサイクルバザー開催
40組予定(一般公募)
飲食店、大道芸

分科会—パネルディスカッション—

ひらけひろがれ花の街、すいた —吹田の街が好きだから—

行政と市民が一体となった「まちづくり」を目指し、一人一人がまちを美しく保ちたいと思う心と、ゴミを捨てない意識の改革をねらう。

公園の新たな楽しさ提案

ゴミを捨てない意識づくりが大切と誰もがわかっている。しかし、それが実行できないのが人間である。公園についても同様、昨年のエコスポ'93のアンケートの中でも多くの市民が「緑の多い楽しめるきれいな公園」を望んでいた。
公園を身近に感じ、公園の素晴らしさ、大切さを実感してもらい「公園は我々市民のもの」という意識の改革をねらう。

今、古典行事を見直す

新しい文化と古い文化が混在した街、吹田。吹田まつりが新しい文化とすれば、高浜の船渡御やドンドコ囃子、太鼓等伝統的な文化も多々存在する。そこで古き良き吹田の古典行事を見直し、市民と共に吹田を理解し郷土愛を育む。

すいたInternational Human Bond (IHBプログラム)

国際貢献・国際交流と型にはめず自分以外の人を尊重し共に生きる姿勢が大切である。そこで、国際という視点から世界の人々と共に生きようという姿勢の追求。

自然への気づき

北海道羽幌焼尻キャンプに参加した子供達、両親、大学生ボランティアがキャンプでの思い出と、そこで学んだことを発表し、この体験を、今後の自分自身の生涯にどのような影響を与えるか感じとる。

全体発表会—パネルディスカッション—
コーディネーター 浜村 淳氏
パネラー 高橋理男氏 (財)大阪自然環境保全協会理事長
藤野 達也氏 (財)PHD協会主任理事
松木 正氏
大枝 正人 (社)吹田青年会議所理事長

吹田子供野外カーニバル参画
わんぱく相撲
期日 1994年5月5日
場所 吹田市青少年野外活動センター
市民参加 市内小学生257名
腕相撲併設

青少年 育成

なかよしスケート大会
期日 1994年2月5日
場所 ミリカスケートリンク
常照園、松松学園90名
会員45名



25周年記念事業

2月度公開例会

期日 1994年2月18日
場所 メイシアター
市民参加 116名
会員 96名



講師 中田武仁氏(国連ボランティア活動事務所代表)
1993年4月8日、国連ボランティアとしてカンボジアでの選挙広報監視業務中に殉職された御息子の中田厚仁氏の遺志を引き継ぎ活動中。
テーマ 「地球に平和を—ボランティア活動とは」

地球市民大賞(93大阪府知事賞)
'93大阪ブロックTHEプロジェクト委員会
期日 1994年8月1日~12日
場所 吹田市役所
細 美奈菜氏の写真パネル展示による吹田市民への紹介
昨年度吹田J Cが推薦し賞を得る



国際交流の研究
期日 1994年4月9日
場所 服部緑地公園
公開委員会形式で外国人留学生を招き花見を催した。

国際 関係



ネパールで、貧しくて病院に行けない人たちのために、無料で鍼灸治療を行い、ネパール赤十字カトマンズ支部より敷地の無料提供を受け、鍼灸師の養成学校を本年開校する。

青少年への地球市民意識 改革の為の事業

期間 1994年8月5日~8日、9月11日
場所 北海道苫前郡羽幌町及び焼尻島
9/11くるくるプラザ・吹田チャンプル'94会場
参加者 吹田市内小学生21名 ボランティア 5名
メンバー 13名
協力 羽幌町役場・焼尻島5名・羽幌JC14名

講師 松木 正氏
テーマ、アイヌ・ネノ・アン・アイヌ(人間らしい人間)
—生命(いのち)への気づき—



25周年記念事業

地球発見・ふれ愛発見

- 8/5 生命との出会い(PLAN)
- 8/6 ひとの生命とつながる(DO)
- 8/7 ひとをとりまく生命つながる(CHECK)(自然とのつながり)
- 8/8 成長する生命と帰る(ACTION)
- 9/11 吹田チャンプル'94にて総括

25周年総合記念事業

吹田 チャンプル '94

これからのまちづくり

社団法人吹田青年会議所(吹田J C)は、過去25年に渡って、地域の振興・青少年の健全育成・地域環境の整備・国際交流・教育問題・高齢化問題等の様々な事業に取り組んで来ました。これら全ての事業は、「J C宣言」が標榜する精神を地域に具体的に当てはめようとして努力し実践した結果であり、その実績と行動力はJ C外からも大いに評価されるところであります。独自の財源を持ち、他より如何なる干渉に対しても自主独立を

堅持し、会務運営の手続きも厳格であり、抜群の行動力を有しているとのJ Cに対する評価は、J Cを知る多くの人々より寄せられるものでありますが、これこそ過去25年に渡る我々の活動の重要な成果に他ならないのです。

我々J Cは、単なる社会奉仕団体とは異なり、その活動目的の大きな柱として会員自身の修練を掲げ、この結果、会員に対する指導力錬成と機会提供の観点より、いくつかの特徴的な会務運営スタイルを採用しております。いわゆる「単年度制」なる運営方法であり、また、会員資格に年齢制限を設けると行った考え方でもあります。これらの運営上の特徴こそ、まさしくJ Cをして最もJ Cたらしめる特徴の一つであり、我々が有する抜群の行動力の源とも言うべきものでありましょう。

しかしながら、往々にして、それぞれの事業が各委員会の提案に基づき別個独立のものとして扱われるがために、また、年度年度によって各事業に対する捉え方も違ったりするので、個々の事業そのものに対する役割分担や実施要領等については理解していても、年間を通じて、はたまた、自分のJ C在籍期間中を通じて一体自身がなにを目指して活動したのか、J Cが何をを目指して活動しているのかよく分からないと言った状況もまた現実であります。

J C内部においてこの有り様ですから、いわんやJ C外部の人たちには、社会活動団体としての吹田J Cが、日々の活動を通して何を目指し、何を訴えようとしているのか、理解しづらいのは当然と言う他ありません。

ところで、すべからく多くの組織体には(私たち一人一人もそうでしょうか)、肯定的側面もあれば否定的側面もあるものだと考えられます。従って、大事なことは、誇るべき点を伸ばし、克服すべき点を乗り越えていこうとする姿勢です。そこで、

- ① 各委員会より提案されている各記念事業について(各委員会の自主性をそこなうことなく)何か共通のコンセプトをそこに見だし、更に、単なる一過性のイベントでなく、各委員会の思いを更に深め地域に対して広げていこうとする作業(理事長スローガンの実践)。
 - ⇒この役割のために周年担当者連絡会議を設置
- ② J C宣言と①の作業との擦り合わせ作業(J C宣言の実践)
 - ⇒宣言の最終目的 「地球上のすべての人と共に生きる」
【多様性】 【共生】
 - ⇒宣言の実践ステップ 個人⇒地域⇒国家⇒全世界
 - ⇒ロム活動との関係 この内、個人・地域を活動の基盤とする
 - ⇒個人に対して 多様性を認めた上で共に生きるんだと言う意見の啓発
 - ⇒地域に対して 「地域」てなあに?(実感しにくい地域) 地域シンボル化
- ③ J Cの運動を何とか外部に開き広げていくための手法を模索・実験する
 - ⇒プランの提言・活動団体の組織・市民参加者の学びや触れ合い

以上のことをふまえて、私たちは、今年度

- ・地域シンボル化政策プロジェクト部門として
 - ① ひらけひろがれ花の街すいた
 - ② 公園の新たな楽しさ提案
 - ③ 今、古典行事を見なおす
- ・市民共生意識プロジェクト部門として
 - ④ すいたInternational Human Bond(IHBプログラム)
 - ⑤ 自然への気づき

以上5つのテーマについて研究してまいりました。

1

ひらけひろがれ花の街すいた

—— すいたの街が好きだから ——

1. 吹田JCと環境問題

環境問題という言葉からいつも浮かぶジレンマ



環境問題、理解はできても 行動は？



これが問題だ！ 環境問題はピーターと狼じゃない。



そしたら僕等は大好きな吹田の為に何ができるだろう？



住んでいるまち、働いているまち、学んでいるまちとして吹田がもっともっと魅力的なまちになるよう何かを考え、始めよう。

2. 景観美化による環境改善推進運動への取り組み

そこで考え、行動に移してみたのが、“ひらけひろがれ花の街すいた”



生活に安らぎと潤いを与え、やさしさと温もりを実感できるまちで、生活空間に欠くことのできない要素である花と緑があふれるようになれば、「いつもきれいにしておきたいまち」となり、自ずと「ごみを捨てる人がいなくなるまち」に至る。花や蝶や蜜蜂が引き寄せられるように、人もまたそのような景観の街に旅情を感じ、引き寄せられると思うよ。



市民のボランティア活動で育てた花を、市民のお金で購入したプランターに植え替え、継続管理する組織づくり（フラワーボランティア）をしよう。（詳細は25年目の事業紹介のひらけひろがれ花の街すいたのチャート図をご覧ください。）





そしてその運動のうねりを、企業ボランティア、行政にまで及ぼしてみよう。

3. 環境改善推進運動を継続、発展させるための自治組織づくり

ありがたいことにこの運動における輪の広がりはずごかったね。



でも、今年だけでこの運動は結果のでもものではないしね。



そうだ！



この運動が下火にならず、花が増え、それと共に仲間の輪も益々広がるような体制づくりが必要だ！



すると既にフラワーボランティアの想いが、企業に伝導し、“企業環境となり組”なる組織ができつつあることに感動！また行政もこの運動を大いに市民にPRし、盛り上げて頂き感謝！



そこで提案！！

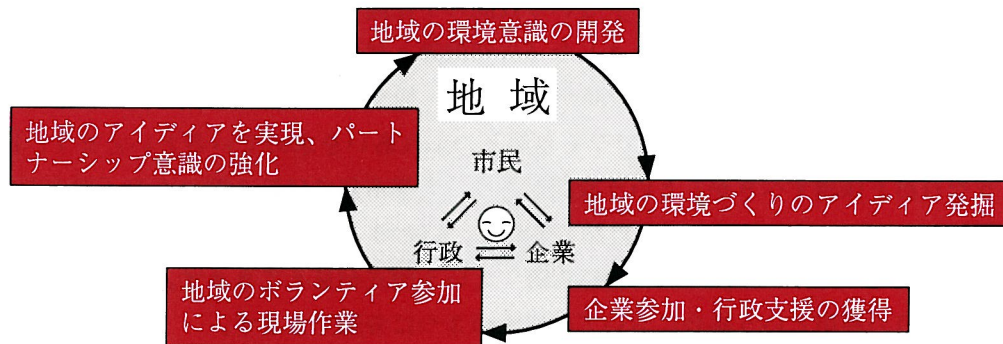


市民の主体的な環境改善推進運動を継続、発展するため、行政や企業が資金面、専門的知識でそれを支援する協力体制が必要であろう。この三者がバラバラに運動や活動を行っても大きな成果は期待できない。市民、企業、行政がそれぞれに歩み寄り、お互いの役割と責任を確認し合い、情報交換を交えた話し合いで豊かな知恵を出し合い、主体的に協力し合い有効な結びつきとならなければならない。

それぞれの主たる役割及び責任について

- 傍観者ではなくボランティアの主導者としての市民
- 利潤追及一辺倒でなく環境にやさしい経済的支援者かつ専門的知識提供者としての企業
- 財政的支援の他、制度的支援を中心とする調整役としての行政

それぞれの立場を相互に理解し合い助け合い、三者一体となってゴミ減量、リサイクル、緑化、公園づくり、散歩道の整備、企業敷地の環境改善、自然の保全、その他市民環境改善推進運動など幅広い地域環境の問題に取り組むべきである。三者のこの取り組みこそが環境をプラスのサイクルに導く近道であろう。また、この三者一体となった協体制度を次世代へ伝えるべく、長期的視野に立って環境教育にも力を注ぐ必要がある。我々の日常生活は密接に環境と関わっており、幼児期から老年期まで家庭、学校、職場、地域のあらゆる生活の場で、生涯学習として学び続けなければならない。そしてこうした一つの地域の取り組みが隣接する各地域の垣根を越えて、広域的視野に立った連帯の輪を開け広がれとおし進めていくべきであろう。



ここで市民、企業、行政の見事な連携をみせるイギリスのグランドワークトラスト運動（1981年に政府・環境省・田園地域委員会が音頭をとり設立）を『小さくともキラリと光る国・日本』武村正義著（光文社刊）より引用し紹介。

グランドワークトラスト運動

民主主義の悪い例ばかり挙げすぎた嫌いがあるが、これからのまちづくりに参考となる例も紹介しよう。

環境を守るために住民自身が立ち上がり、企業・行政が一体となって取り組む時代がきているという海外の例である。

昨年（1993年）のゴールデンウィークに、私はイギリスを訪れた。このとき、ロンドン近郊で行われているグランドワークトラスト運動を見てきた。

ナショナルトラスト運動なら、日本でもよく知られている。すぐれた景勝の自然を保存するために、その地を住民たちが買い取る運動である。ところが、グランドワークトラスト運動のほうは、まだまだあまり紹介されていない。

グランドワークトラスト運動とは、自治体と住民、そして企業の三者が力を合わせてまちを美しく改造しようというものだ。イギリスで数年前から始まっている。日本でも平成4年（1992年）から、この運動を考えるグランドワーク研究会が始まり、私が会長を務めている。

イギリスで見た具体的な活動例を挙げよう。

ある工場に空き地があって、そこにいつのまにかゴミが捨てられるようになった。空き地変じてゴミの山となった。

この地域にとっては、美観を損ねるだけでなく、不衛生であり、かつ目障りな存在である。そこで自治体と周辺の周辺の住民、それにその土地を所有する工場（企業）が相談を始めた。

それぞれが資金や労働力を提供して、まずゴミを撤去し、そこに小さな公園をつくろうという計画ができた。工場の空き地だった醜いスペースを、きれいな街角に変身させようというわけである。

やがてゴミの山に代わって樹木や花が植えられ、土が盛りられ、小さな池が掘られたりした。これだけで街並みは大きく変わったのである。

いかにもイギリスのような伝統的民主主義の国の発想ではないだろうか。企業だけを責めるのではない。自治体だけに任せるのではない。そこに関わるみんなが資金を負担し、汗も流す。このいわば草の根運動がいまイギリス各地に広がっている。

人、まちを創り、まち、人を育てる

2

公園の新たな楽しさ提案

——まちづくりと公園——

歴史的に見ますと、人類は自然を作り変え、それを通じて自らを作り変えるという課程で発展してきました。土地利用という面から、もっとも強度に自然に働きかけたのが、現在の大都市でありました。大都市では次々と自然環境が消滅し、それに代わるものとして公園が誕生しました。そして1970年代に入って身近な自然を守る市民運動が大きな盛り上がりを見せました。「小川が流れ、農地があり、樹林がある、四季折々の花が咲き、生き物が生息する。」そのような昔なら当たり前のよう存在していた自然を、もっとも人工的な大都市に住む市民が、居住地の近くで求めているのであります。

これからの“まちづくり”に関しては、「公園」即ち「自然との共生」というものが切り離せない問題になってくるだろうと考えられます。昨年吹田JC“まちのぞみ委員会”が行いましたアンケート調査の「今、行政にしてほしいことは何か」という設問の1位回答は“自然の残る緑の多い楽しい公園”でありました。また政府が1991年に行いました「自然保護と利用に関する世論調査」に「自然とふれあう機会を増やしたいと思うか。」という設問があります。増やしたいと思う人が都市部では7割を越えています。単に自然を残せというだけでなく自然とのふれあいを求めているといえます。同じ調査で「どのような自然を保護すべきか」という設問があり、大都市部では約6割の人が「都市内に残っている自然」「昆虫や小動物が生息している自然」という、いわゆる「身近な自然」を挙げています。以上のことから“まちづくり＝市民の声＝自然保護”という図式が見えてきます。

また自然(公園)の利用という場合においては以下の3つに分類できます。

1. 大規模で長期滞在が可能な自然(公園)
2. 一泊か日帰りで行ける自然(公園)
3. 日常的な散歩、子供の遊び場となるような自然(公園)

吹田において言うならば大抵の場合2もしくは3の範疇に入るでしょう。2を「郊外型自然(公園)」、3を「都市型自然(公園)」を呼ぶなら「郊外型自然」は“万博記念公園”であり、「都市型自然」は“江坂公園”でありましょう。

“万博記念公園”は郊外型ということで一日ゆっくりと過ごせるということを重きにおいて、より自然に近い、また諸外国の公園のように小動物が真近に見ることができるよう公園を目指してもらいたいものです。そのためには、私達一般市民の意識改革(自然をもっと愛するということが必要です。

“江坂公園”は都市の中心部にある公園ということで、平日の昼間のサラリーマン達の憩いの場、休日の近隣家族の憩いの場、買物客などのくつろぎの場といったように多面的な公園です。今後はそれらをいかに調和させるかが課題となります。

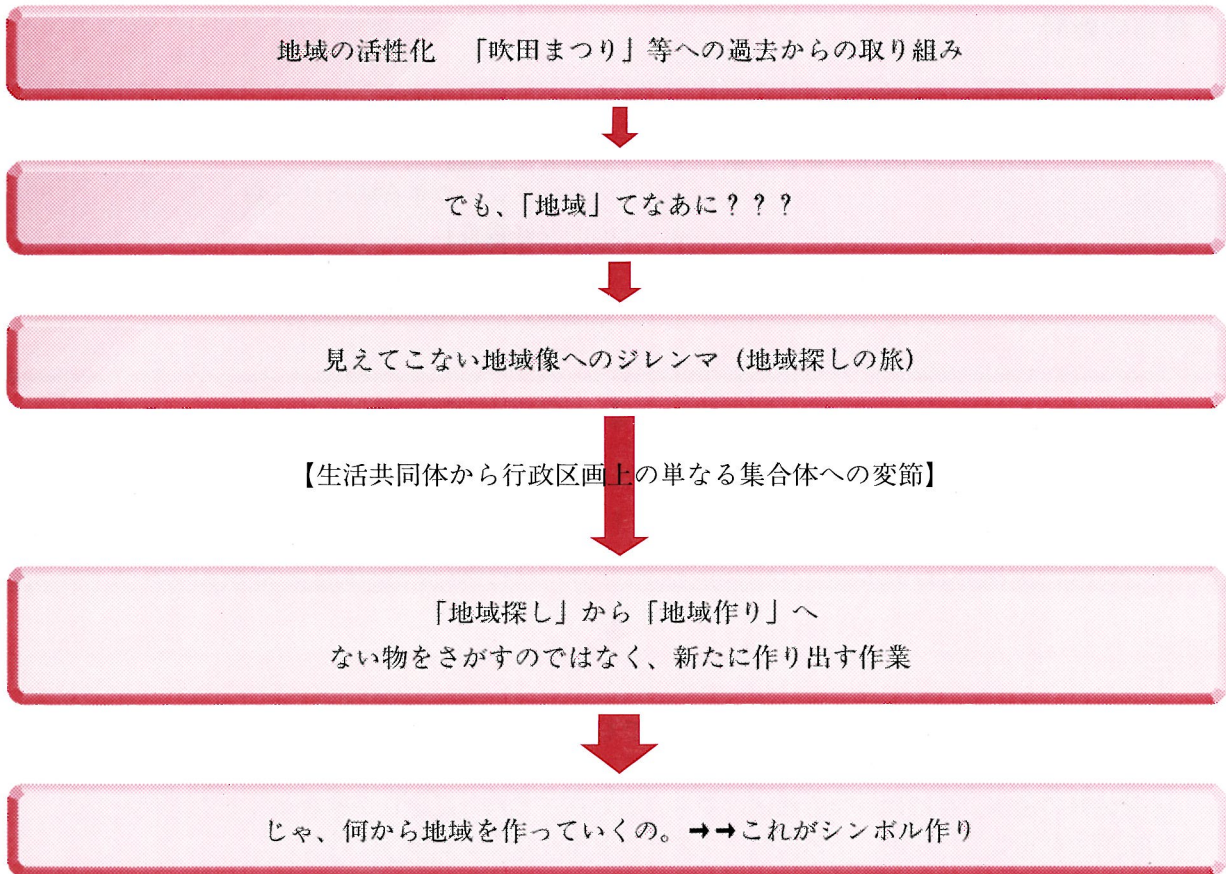
私達、(社)吹田青年会議所は以上のことをふまえて、市民意識を盛り上げ、行政とのパイプ役になって“明るい豊かな吹田のまちづくり”の一翼を担わなければならないと考えます。

3

今、古典行事を見なおす

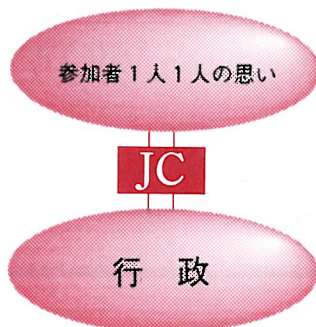
—— 市民とともに、見つけよう心のふるさと ——

1. JCと社会開発プログラム



2. JC事業の中に込められた一つの挑戦

- 本年 吹田まつり本祭のパレードに参加 高浜神社の船渡御 再現
- 特徴
- ・製作から祭り当日の引き手まで絶えず市民の参加を意識したプログラム作り。
 - ・「古典行事・復興の会」設立を将来に見据えて、その準備段階としての位置づけ。



夏になると必ず懐かしく思うことが沢山ある。蟬の声、花火、スイカ、蚊取り線香、そうめん……
毎年のことなのに懐かしい
そして、祭り。太鼓の音、ふえの音色、アセチレン球、ゆかた、ハッピー、
それは見る人を高揚させ、一瞬にして「あのころ」に戻す。
何故だろう。
それは知らずのうちに私達の脳裏に焼き付いた「心のふるさと」が、そこにあるからではないだろうか？

4

すいた International Human Bond

—— 地域を基盤とした市民の世界との絆 ——

[Community Based & Non-Governmental Organization への願いを込めて]

1. 最初の疑問

ここ10年 吹田 J C の国際プログラム ⇒ 「国際文化交流」
 ・カントレー少年合唱団 (USA)
 ⇒ 「国際友好親善」
 ・各種留学生対象の事業
 ・姉妹 J C (HONG-KONG)



ここでのチョットした疑問???



姉妹 J C って香港に買い物に行くことなの？ でも、それじゃ「2回も行ったら飽きちゃわない」。

8月最終の週末、香港はいつも連休。でも、この日って何の記念日か誰か知ってる。確か、この時期を利用して、以前、子供交歓プログラムをやったことがあったけど。

ロックフォード市からやってきたカントレー合唱団。世話で忙しかったことはよく覚えているけど、その中の一人とでもゆっくり喋ったことある。関係ないヨ、関係ない。それは英語の出来るやつにまかせておくことさ、何んて声、聞こえてきそうな気がしない。(英語を喋ることイコール国際交流??—そう言えば英語が得意ですって言う総理大臣もいたけど—)

国際関係のプログラムは、日本 J C とかにまかせとけばいいじゃない。うちみたいな普通の L O M (J C の最低組織単位のこと) でそんなこと、関係ない、関係ない。(人作りから地域作りをめざす J C、外国の事はほんとに他人事??)

なんにも、外国ばかりに目を向けなくても、自分の回りでやらなきゃならないことが山のよう。なんで、やれ国際交流だ、やれ国際理解だなんて言うの。あれは、好きな奴にやらせとけばいいの。



いろんな思い、いろんな声が聞こえてくる



でも、でも、こんな現実も



世界の人口の3割が世界の資源の7割を消費してるんだって。日本は、勿論その3割の中。ひどいなと思いつつも、でも今の日本で、みんなが消費を抑えたらどうなるの、うちの会社、ぼくらの生活。

日本って世界中にODAや何やかやで、沢山お金使ってるんだって。私たちには、関係なしで済んでも、国によっては、そこで住む人達の生活に関係大有りみたい。

日中戦争から太平洋戦争へと突き進んだ30~40年代。自分の家に他人がドヤドヤやってきて、あれこれ講釈言つてメチャクチャされたら、貴方なら笑って許す、そのよそ者を。

2. 私たち (International Human Bond —IHB—プログラム) の願い

世界中で暮らす多くの仲間達。立場は違い、置かれている状況は違っても同じ人間。共に生き、共に学んで行きたい。でも、私たちに何が出来るだろうか、どうすればいいのだろうか。

何が出来るかは分からなくても、まず、自分を見つめたい、自分たちを知りたい。そうすれば、きっと自分の周りの人々のことをもっと知ることができるんじゃないだろうか。

私達は望む、幸せに生きたい、平和に暮らしたいと。人から必要とされ、愛されたいと。自分がそう考えるなら、きっと、自分以外の人々も同じように考えているはず。自分達を尊重してほしい、だから他人を尊重したい。

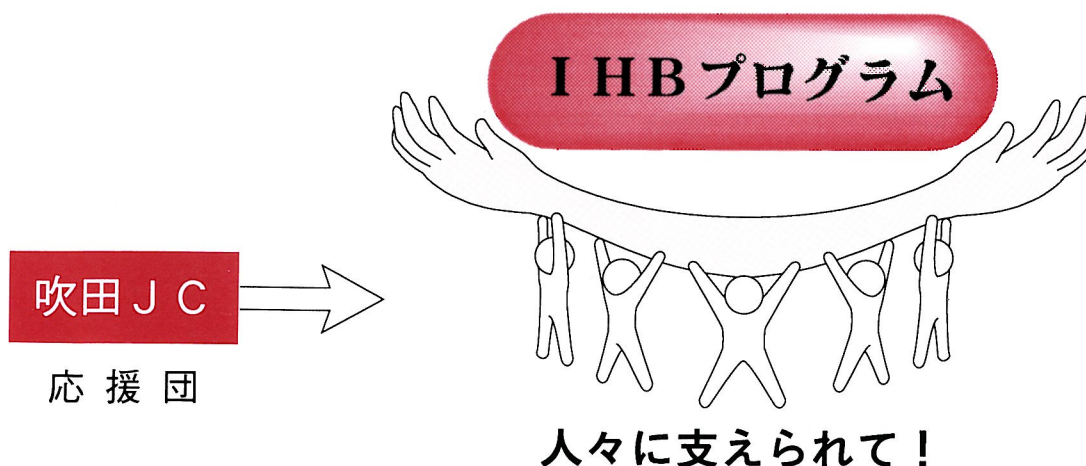
でも、幸せって何。平和って何。いっしょに考えよう。共に学ぼう。そして、忘れないでおきたい、この世界でまだ見ぬ多くの人たちと僕たちを結ぶ多くの絆を。

世界の人々と共に学び、共に生きようとする思いを大切に生きたい、人間の絆 (Human-Bond) の中で。

3. 私たちの提案— IHBプログラムについて—

IHBプログラムとは、世界の人々と共に学び・共に生きようとする姿勢を「国際」と言う視点から追い求めたいとの願いを表現した名称です。

この活動の主体は、地域の人々による絆作りの中のみ求められるべきであり、もっぱら個人の自発的な意思に基づいた活動であるべきです。



そこで、ここでは、いくつかのプログラム実施に役立つであろうと思われるアイデアを幾つか紹介いたします。

1) 参加者への呼びかけ手段 (資料1)

具体例 → 「国際理解の集い」 “一人ひとりが主人公”

- 第1回 8月25日(木) 「世界のつながりの中にいる私たち」
水先案内人：栗野真造さん・国際子ども権利センター代表
(財)とよなか国際交流協会事業課長
- 第2回 9月11日(日) 「生きることは分かちあうこと」
水先案内人：藤野達也さん・(財)PHD協会 主任主事
- 第3回 9月22日(木) 「豊かさ・貧しさってなあに」
水先案内人：栗野真造さん
- 第4回 10月7日(金) 「私の中のアジア —みんなで語り合いましょう—」
水先案内人：草椰育子さん and Friends
A H I 93年スリランカグループ有志

ねらい 参加者どうしの仲間作り・動機付け

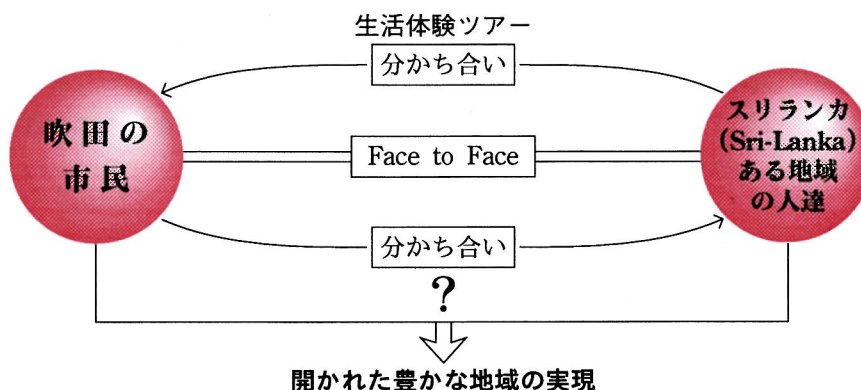
話を一方的に聞く(教えてもらう)んじゃないくて、参加者どうしの触れ合いの中から、自分の中の「気づき」を見いだしていくきっかけ。

2) 学びの場作り

具体例 → スリランカへの生活体験ツアー

現地調査を予定。

現地協力団体との打ち合せ(活動状況把握と協力の可能性を探る)



5

自然への気づき

—— 青少年教育分野において我々が
果たすべき役割と可能性を求めて ——

「人間らしい人間」をめざして、子供達と共に成長していきたい!!

8月5日より8日まで実施した「地球発見・ふれ愛発見」キャンプ



ただの旅行だったら、それは旅行会社の仕事。参加する子供達は単なるお客さん??



NO!!



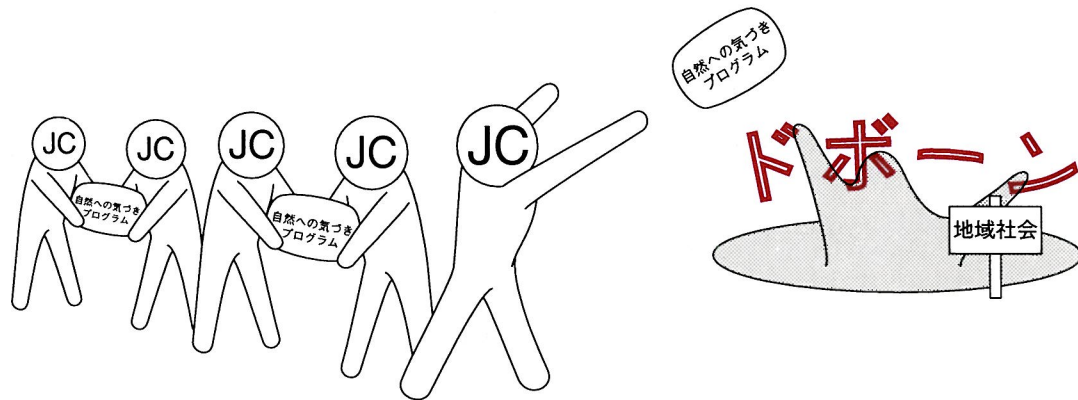
予算を使ってまでこういったキャンプをJ Cが実施するねらいは何か



もちろん、参加した子供達に感動と気づきの場を提供したいという願いは当然としても、

プログラム開発の方法や体験学習の手法を我々が学習し、それを大自然という願ってもないロケーションの中、友好J C（北海道羽幌J C）の協力を得て、子供達を相手に実践できる絶好の機会だから（我々の学習）。

更には、現在各地でボランティア指導員として活躍している青年達に対して機会を与え、本物の指導法を学ぶ機会を提供することにより、今後の活動に影響を及ぼしたい（社会への働きかけ）。



実践経過（JCメンバーとボランティア指導員が手を携えて）

- 事前研修（プログラム開発方法と体験学習手法について）
- 野外研修（6月4・5日 場所：高槻市立撰津峡青少年キャンプ場）
- 実施シュミレーション（7月）
- キャンプ（8月5日～8日）
- 気づきと振り返り（9月11日）

提 案

地域に対して 「自然への気づき」プログラムと学習手法のPRと普及・継続学習・多くの実践
 参加した子供達 気づきの中から「何ができるかを考え具体的にアクションをおこさせるためのフォローアップ」

「自然への気づき」プログラムの3大要素

1. 学び方を知る 「教える人」対「教わる人」の関係から「自身が主体的に学ぶ1人称の学習」へ
→ [体験学習]
2. 協力とは何かを知る [人とのかかわり方への気づき]
 - ・一人一人が違うということを認めあうこと
 - ・目的決定の課程を共有化すること
 - ・今、他の人が同時に何をやっているのか互いに知っていること
 - ・つながりの中で自分の持っている力を出し切ること
3. 人も自然の一部であることを感じはじめる

「自然への気づき」プログラムの祈り

「他人の人格を尊重し、自然と調和して自然に感謝して生きる、真の人間性を持った人間」に向かって歩み出すきっかけを得たい、与えたい、共に分かちあいたい。

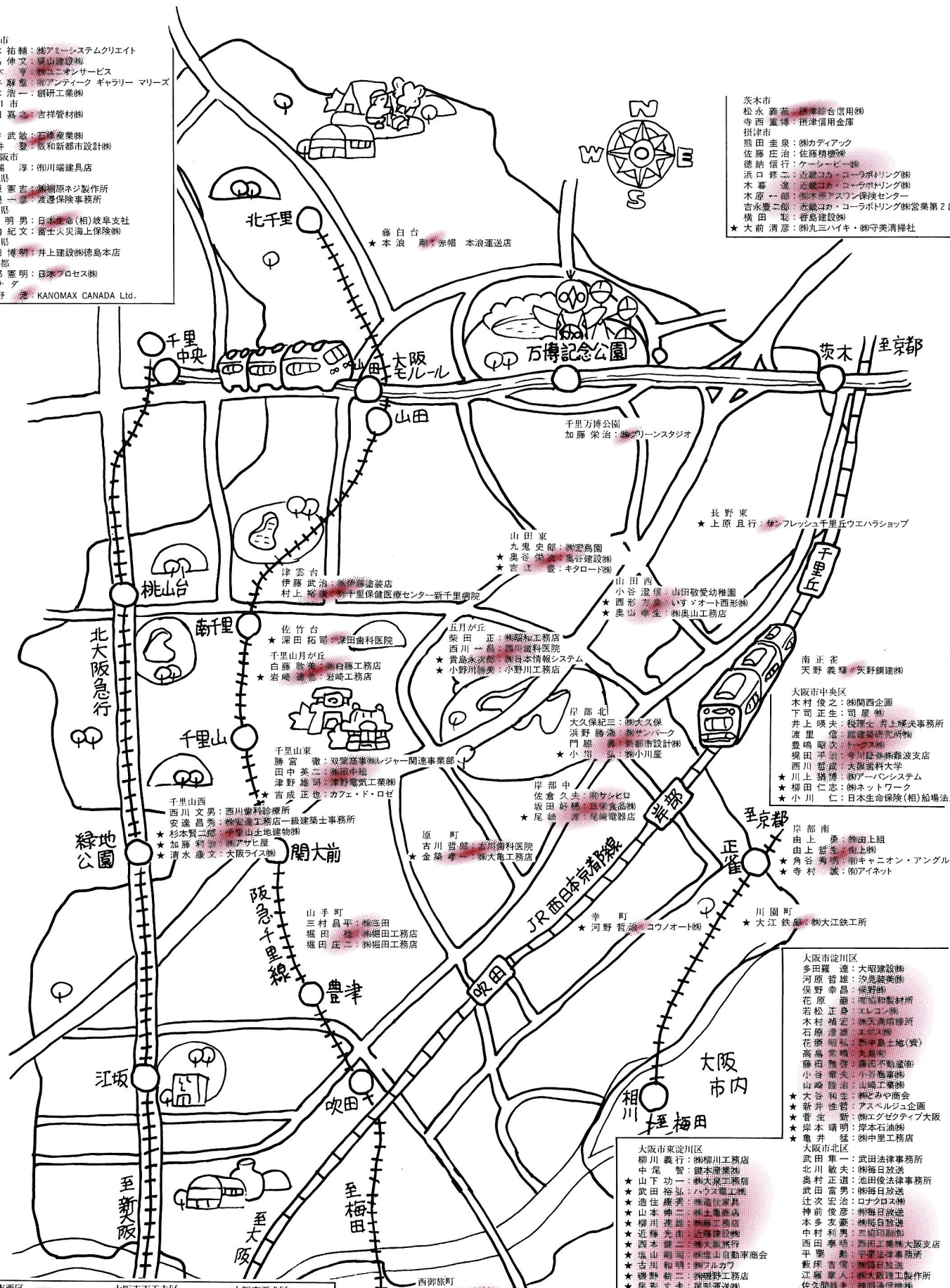
本プログラムのスーパーバイザー 松 木 正 氏

吹田 JC 事業所マップ I

★印=正会員

- 豊中市 祐輔: 機アーステムクリエイト
- 藤木 伸文: 藤山建設機
- 青木 隆: 青木エンジニアサービス
- ★ 藤井 祥登: 南アンティーク キャラリー マリース
- ★ 桂木 浩一: 創研工業機
- 守山 市嘉: 吉祥管材機
- 堺市 荒井 武敏: 荒井産業機
- 笠井 登: 笠井和和設計機
- 東大阪市 川端 淳: 南川端建具店
- 兵庫県 柳原 豪吉: 柳原ネジ製作所
- ★ 渡邊 一彦: 渡邊保険事務所
- ★ 岐阜県 岸 明男: 日産生命(相)岐阜支社
- ★ 里内 紀文: 富士火災海上保険機
- 徳島県 原田 博明: 井上建設機徳島本店
- 東京都 物部 啓明: 物部アロセス機
- カナダ 加野 浩: KANOMAX CANADA Ltd.

- 茨木市 松永 義高: 松永綜合信用機
- 寺西 重輝: 摂津信用金庫
- 摂津市 熊田 圭泉: 機カディアック
- 佐藤 庄治: 佐藤精機機
- 徳納 信行: ケーシービー機
- 濱口 修二: 濱口コーポレーション機
- 木暮 道雄: 木暮コーポレーション機
- 木原 一郎: 木原アスファルトセンター
- 吉永 義徳: 吉永建設機
- ★ 横田 亮: 香崎建設機
- ★ 大前 清彦: 機九三ハイキ・機守美清掃社



- 大阪市西区 藤満 宣夫: 藤満製作所
- 大阪市阿倍野区 中 嶋 敬: 相違信用金庫
- 大阪市天王寺区 梅宮 みのこ: 梅宮あい
- 大阪市西成区 ★ 今田 喜秀: 機マルイン
- 大阪市東住吉区 塚原 恵美子: 機ライフサービス

- 西御旅町 梶川 高廣: 機松文
- 梶川 高廣: 機松文
- 木村 義典: 機木村接工業機
- ★ 金井 弘: 機本化学工業ドライブセンター

- 大阪市東淀川区 柳川 義行: 機柳川工業機
- 中尾 智: 機本進業機
- ★ 山下 功一: 機大誠工業機
- ★ 武田 裕弘: 機ハルマ工業機
- ★ 造住 康秀: 機造住業機
- ★ 山本 隆雄: 機山本商店
- ★ 柳川 達雄: 機柳川商店
- ★ 近藤 光生: 機近藤建設機
- ★ 西本 健二: 機大誠運輸機
- ★ 福山 剛司: 機福山自動車商會
- ★ 古川 裕一: 機古川カフ
- ★ 藤野 裕二: 機藤野工業機
- ★ 尾形 孝夫: 機尾形運送機
- ★ 佐田 雅之: 機カブラ
- ★ 上田 雅之: 機カブラ
- ★ 北 靖久: 機北建設機
- ★ 坂本 一成: 機坂本瓦斯機
- ★ 藤山 元信: 機藤山元信
- ★ 中原 秀樹: 機花文機

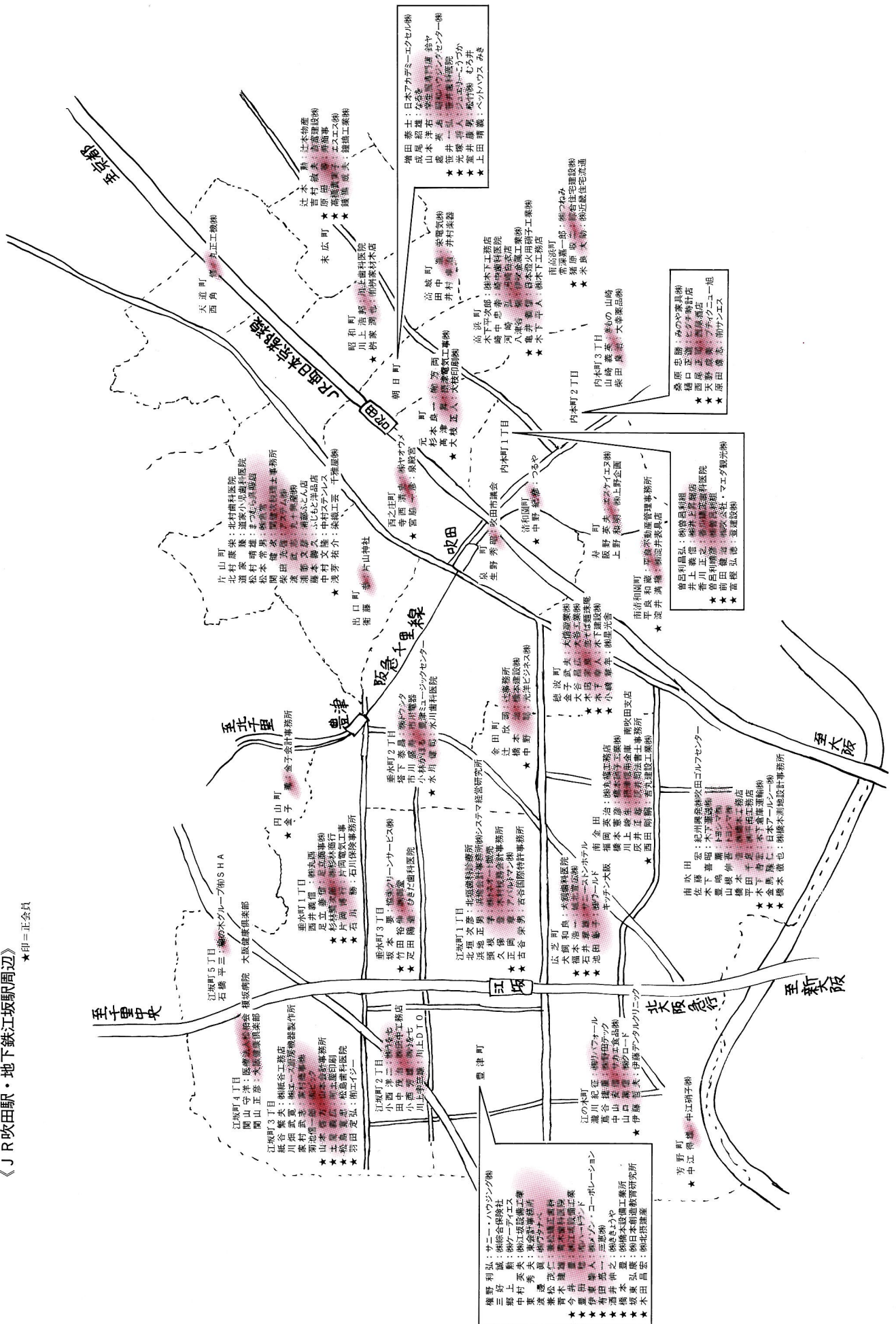
- 大阪市淀川区 多田 雅: 機大昭建設機
- 河原 哲雄: 機河原建設機
- ★ 俣野 幸昌: 機俣野機
- ★ 花原 昭: 機花原機材所
- ★ 若松 正彦: 機エレクトロ機
- ★ 木村 植彦: 機木村建設機
- ★ 石原 達雄: 機石原建設機
- ★ 花柳 昭弘: 機花柳建設機
- ★ 高橋 常晴: 機高橋建設機
- ★ 藤田 雅彦: 機藤田建設機
- ★ 小崎 康夫: 機小崎建設機
- ★ 山崎 雅治: 機山崎建設機
- ★ 坂本 隆雄: 機坂本建設機
- ★ 井上 和彦: 機井上建設機
- ★ 岸本 生: 機岸本建設機
- ★ 岸本 井: 機岸本建設機

- 大阪市北区 武田 圭一: 機武田法律事務所
- 北川 敏夫: 機北川法律事務所
- ★ 奥村 正道: 機奥村法律事務所
- ★ 武田 富男: 機武田法律事務所
- ★ 辻次 宏治: 機辻次法律事務所
- ★ 神本 多利男: 機神本法律事務所
- ★ 中村 利男: 機中村法律事務所
- ★ 西本 泰雄: 機西本法律事務所
- ★ 坂本 隆雄: 機坂本法律事務所
- ★ 江崎 隆夫: 機江崎法律事務所
- ★ 佐久間 隆夫: 機佐久間法律事務所
- ★ 西村 光: 機西村法律事務所
- ★ 林 雅夫: 機林雅夫法律事務所
- ★ 関澤 太郎: 機関澤法律事務所
- ★ 中山 隆雄: 機中山法律事務所
- ★ 矢倉 昌子: 機矢倉法律事務所
- ★ 寺田 太: 機寺田法律事務所
- ★ 坂根 勇一: 機坂根法律事務所
- ★ 新宮 成人: 機新宮法律事務所

吹田JC事業所マップⅡ

《JR吹田駅・地下鉄江坂駅周辺》

★印 = 正会員



ご協賛芳名録 (50音順)

- (有)あ い
アステム(株)
(株)安達工務店一級建築士事務所
足立商事(株)
青木歯科医院
東会計事務所
天野鋼建(株)
生野秀明
(株)伊藤塗装店
井上建設(株)
税理士 井上暎夫事務所
(株)井上昇商店
井村楽器
伊吹金属工業(株)
家村商事(株)
池田俊法律事務所
石橋産業(株)
市川電器
犬飼歯科医院
今川証券(株)難波支店
ウェスティンホテル大阪
(株)うを七
上野和明
(株)魚 常
浦部ふとん店
(株)エース厨房機器製作所
エスケイエヌ(株)
エポス(株)
エレコン(株)
(株)江坂設備工業
(株)大久保
大阪健康倶楽部
(株)大阪理工製作所
大谷工業(株)
KANOMAX CANADA Ltd.
(株)カディアック
香川矯正歯科医院
香島建設(株)
鍵本産業(株)
(株)梶 文
梶山建設(株)
片山神社
兼松矯正歯科
(株)紙谷工務店
川上D T O
川上歯科医院
(有)川端建具店
河崎白衣店
(株)関西企画
紀州興発(株)吹田ゴルフセンター
木下運送(株)
(株)木下工務店
(有)木原アスワン保険センター
木村税務会計事務所
木村熔接工業(株)
北垣歯科診療所
北村歯科医院
吉祥管財(株)
協栄クリーンサービス(株)
(有)協和製材所
近畿コカ・コーラボトリング(株)
(株)グリーンスタジオ
(株)クロード
ケーシービー(株)
(株)ケーディエス
小谷商事(株)
(株)宏鳥園
サカエ食品(株)
(有)サシヒロ
サニー・ハウジング(株)
(株)サンパーク
佐藤精機(株)
栄電気(株)
崎中歯科医院
三栄食品(株)
三協印刷(有)
(株)三 田
(株)システム経営研究所
汐見装美(株)
医療法人松柏会 榎坂病院

昭和建築設計事務所
昭和ハウジングセンター(株)
(株)白藤工務店
新都市設計(株)
神明通信機(株)
学生服専門店 鈴ヤ
関健次税理士事務所
摂津電気工事(株)
摂津信用金庫
摂津総合信用(株)
(株)曾呂利組
相互信用金庫
(株)綜合保険社
(株)田中組
(株)田中工務店
大幸薬品(株)
大昭建設(株)
大信産業(株)
平良不動産管理事務所
武田法律事務所
(株)棚原ネジ製作所
(株)つねみ
津野電気工業(株)
司屋(株)
辻事務所
辻本物産
(株)天満熔接所
トークス(株)
(株)トウシタ
(株)トネオート販売
トヨシマ(株)
道家小児歯科医院
豊津ミュージックセンター
なるを
中村ステンレス
日本プロセス(株)
西川歯科医院
西川歯科診療所
西川哲成
西田工業(株)
西中島土地(資)
日本生命(相)
日本アカデミーエクセル(株)

(株)野田テック
灰井司法書士事務所
橋本硝子工業(株)
橋本建設(株)
(株)橋本工務店
阪和新都市設計(株)
(有)ピック
樋口時計店
平栗法律事務所
(株)平田工務店
藤木祐輔
ふじもと洋品店
藤田不動産(有)
(株)藤満製作所
双葉商事(株)
古川歯科医院
(株)堀田工務店
まつむら呉服店
(株)毎日放送
俣野(株)
丸島(有)
丸十興産(株)
丸正工機(株)
(株)丸西
(株)丸福工務店
(有)万両
みのや家具(株)
村上裕康
(株)ヤオウメ
(株)柳川工務店
きもの山崎
山崎工業(株)
願成寺
由上(株)
由上勇
(株)ユニオンサービス
吉富建設(株)
(株)ライフサービス
(株)リバフォール
ロナクロス(株)
(株)ワタナベ
館建築研究所(株)



ごあいさつ

25周年実行委員長 淀井 満 福

1970年、万国博覧会の年、時代の要求と創始の精神をもった先輩方の熱い想いにより吹田の地に全国で436番目の青年会議所として誕生しましてから、おかげさまで本年度で創立25周年を迎えることができました。

本年、「開け広がれ」C運動」のスローガンのもと、少数でもその事業に共に参加し共感した人々に、より自然に広がって行くように促すような事業展開を行ってまいりました。

まず、市内のボランティアの方々とは花を育て、まちを美しくすることによって、人々の心も美しくしようと活動を展開した「ひらけ ひろがれ 花の街すいた」

中田武仁国際ボランティア大使を招へいし、市民の方々をお迎えしての「公開例会」

マンネリ化しつつあった吹田まつりに、古くからこの地にある船渡御を、市内のボランティアの方々に船の製作から協力していただき、再現しました「平成の船渡御」

キャンプなどのボランティアの学生と共に小学生の子供達を、北海道の羽幌の地に3泊4日のキャンプに訪れ、自然の大切さと人との和を学びました「地球発見・ふれ愛発見」

これら一連の事業が今後わがまちの創造のため、新たな第一歩を踏み出す場にと考え、本日総合記念事業“吹田チャンブル'94”を行いました。

私共は、これら事業の結果をふまえて、明るい豊かな社会を築き上げるべく努力致す所存ですので、今後とも皆様方の変りませぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本日ご多忙にもかかわらずお越しをいただきましたことに心より御礼を申し上げますとともに、今後ますます皆様方がご健勝でありますようお願い申し上げます、簡単ではございますがお礼の言葉とさせていただきます。

編 集 後 記

創立25周年記念誌Memorial Waveを発刊するにあたり、我々の諸先輩方の20周年までの運動の足跡を十分に踏まえた上で、最近5年間(21年目から25年目の間)の運動の中で環境問題を中心に成果の再確認を致しました。また、25周年推進連絡会議からの寄稿により、これからのまちづくりの道標となるべく、青年会議所内外への提言を行いました。

企画、編集にとりかかり、資料収集の際に当時へのタイムスリップを体験できたことは、編集スタッフにのみ与えられた幸運でした。

最後に本誌の不備な点をお詫びし、諸先輩、関係各位のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、本誌を共に眺め、懐古の情を分ちあえずして、逝かれた方々のご冥福をお祈りし、編集後記とさせていただきます。

企画・編集

西 形 方 良
加 藤 利 治
土 屋 義 広

亀 井 義 信
杉 本 賢 二 郎
中 野 紀 彦

片 岡 博 行
高 橋 貴 美 子
原 田 等

監 修

淀 井 満 福
河 野 哲 治
橋 本 徹 也

山 本 啓 方
榊 家 潤 也

金 馬 隆 仁
松 島 寛 忠

イラスト協力

社団法人 吹田青年会議所

創立25周年記念誌 Memorial Wave

発行日：1994年9月11日

発行：社団法人 吹田青年会議所

〒564 吹田市広芝町10-3 サニーストンホテル内

TEL06-386-1475 FAX06-337-1682

企画・編集：社団法人 吹田青年会議所 広報渉外委員会

印刷：大枝印刷株式会社

〒564 吹田市元町28-7 TEL06-381-3395

